

江戸川乱歩 原作
齋藤雅文 脚本・演出

「黒蜩蛭」再演 《全美版》

平成三十年六月 花形新派公演
於 東京日本橋 三越劇場

場割

第一幕

序 ピアノのある酒場。(昭和初年。秋の夜。日本橋のビル)

第一景 仮面舞踏会。(半年前。新橋の幽霊ビル)

第二景 明智探偵事務所。(銀座。)

第三景 帝大の構内。(本郷。帝大医学部の死体置場)

第四景 ヤマトホテル。(日比谷。岩瀬の部屋と廊下)

第二幕

第五景 岩瀬邸。(芹屋。早苗の部屋、塀外と応接間)

第六景 新世界の歓楽街。(大阪。通天閣下)

第七景 通天閣。(展望台)

第八景 ルナ・パーク跡。(廃材置場)

第九景 海上。(怪船の船内と甲板)

第十景 恐怖美術館。(東京湾。黒蜩蛭のアジト)

主な登場人物

黒蜥蜴……ある時は、緑川夫人。女賊。
雨宮潤一……ある時は山川健作。
北村……黒蜥蜴の手下。
紅子（べにこ）……同。
松公（まつこう）……同。船の機関士。
死体置場の老人

明智小五郎……探偵。
井上……明智の部下。
マユミ……同。

岩瀬庄兵衛……宝石商。

岩瀬早苗……庄兵衛の一人娘。

岩瀬夫人……早苗の母。

春……岩瀬家の女中。実は、黒蜥蜴の手下。

書生

女中一

同二

郷田……フリーの記者。売れるなら何でも書く。

影井……新聞記者。

白鳥……同。

ジャック……道化師。犯罪者。

一寸法師……謎の盗賊団の首領。凶暴。

波多野警部……明智にライバル意識を燃やす。イタリア帰り。

仮面舞踏会の男女。

一寸法師の手下たち。

怪人二十面相。

ヤマトホテルのボーイ。

警官たち。

私服の刑事たち。

新世界の人々。
売店の娘。
黒蜥蜴の手下たち。
恐怖美術館の人形……父。
同……母。
同……妹。
同……女中。

序　　ピアノのある酒場。

暗い中、幕が上る。
日本橋のビル。ピアノのある酒場。時は、昭和初年。秋の深夜。
歌声が聞こえて来る。
ゆったりとした、バラードのような歌声は、洋行帰りで警視庁一
の伊達男、波多野警部である。曲は、たとえば英語で「私の青空」。
歌の途中から、その姿が照明に浮かぶ。
斜め後向きのピアノ。軽く伴奏する店のピアニスト。グラス片手に、ピ
アノに寄りかかるように気持ち良く歌っている波多野。
……歌っていたが、客席に知り合いを見つけたようだ。

波多野　（客席へ）……聞いていたのか……。そうならそうと、言ってくれよ。（苦笑
して）よく来たな、こんなところまで……。日本橋にこんなモダンな酒場があるな
んて知らなかったろう。さすがメトロポリス東京だ。東洋一の地下鉄は通る。（グ
ラスを挙げ）グラッパはある。（ピアニストへ）君も一杯どうだ？

ピアニスト　ノ・グラッツェ。（もちろん日本人です）
波多野　つまらん男だな。（客席へ）たった一つの道楽なんだ。邪魔しないでもら
いたいね。警官なんでものを続けているとな、たまには、こんな間抜けな
声をあげて世の中のことを忘れたいもんさ。（暗い客席を透かして見なが
ら）「都新聞」に……「萬（よろず）朝報」さんまでお出ましか。まった
く物好きな連中が揃ったもんだ。そんな俺の話が聞きたいのか？……いや、

もとい。そんなに「黒蜥蜴」の話が聞きたいのか？……（ひとつ飲んで）
……ああ、黒蜥蜴かあ。もう一遍聞いてえなあ……。知ってるか？黒蜥蜴
という女盗賊はな、悪党どもが集まる秘密のパーティーでは、宝石以外、
一糸まとわぬ姿で踊るんだ。それが最高潮に達すると、二の腕の黒い蜥蜴
の刺青が、まるで生きてるように動き出す……。奴の白い餅肌の上を、
黒い蜥蜴が、なめるように這い廻る……。ああ、いやらしいなあ、くそ……。
……だそうさ。あの乱歩っておっさんなら、いつか小説に使うんじゃない
か。……これから先は、俺の「ひとりごと」だから、そう思って聞いてく
れよ。その橋の下に浮かびたくなかったら、俺がしゃべったなんて書か
ないことだ。そう、これは、この警視庁の波多野十三郎と探偵明智小五郎
が出会った世にも不思議な……。そうして、切ない女盗賊の物語だ……。

ピアノが、「私の青空」を奏で始める。

波多野

……事件の発端は……。正式には「宝石商岩瀬家令嬢誘拐ならびに宝石ク
レオパト라의涙強奪事件」だ。その直前に、例の悪党どもの秘密の仮面舞
踏会が開かれるという情報が舞い込んで来た。ちょうど半年ほど前の、そ
う、妙に生暖かい春の深夜だった……。

4

第一景 仮面舞踏会（新橋の幽霊ビル）

突然、場面は、悪党どもの仮面舞踏会となる。

様々に仮装して顔を隠した悪党どもが、「私の青空」を歌いなが

らどつと現れる。オーバードラップして波多野は、奥に消え、ピア

ニストは、仮面をつけて悪党の一人となる。

新橋の港に近い、倉庫街の一画。古い煉瓦造りの廃ビルの中。材木で塞が
れた窓の隙間から蒼く入る月光、使われなくなって久しい、ガラんとした
室内。元はホテルの広間でもあったような。

怪しい男女の仮面舞踏会が始まった！皆、各々に顔を隠しているのは、こ
こに集まった連中が、世間に反逆し、あるいは憎悪する暗黒の世界の住人
たちだからである。官憲をはばかりているにはあらず。互いに悪党同士、
肚をさぐりあい、邪悪な権勢を誇り合っている。

異様な風体の男女が踊る中、道化師のジャックが声を上げる。

ジャック

レディース、アン、ジェントルメン！満場の悪党、悪人、悪漢諸兄！晚上好（ワンシャンハオ）！今年もこうしてお互いの無事を確かめ合うことの出来る幸運を、天に感謝いたしましょう。さあ、踊り明かしましょう！帝都のしじま、善良なる小市民共が夢を貪るこの夜更けに、邪悪と、淫乱と、猥雑と、愛欲の限りを尽くして！

一同（歓声）

ジャック

（踊る人々をひやかしながら）大日本帝国が誇る怪人二十面相様！明智小五郎との対決の数々、楽しませて頂いております。……え？あちらが？（笑って）まあ、誰が二十面相様でもかまやしません。どうせ誰も素顔を見たことなんてないんですから！……おお、蜘蛛男様！黄金仮面様！悪漢の中の鼻つまみ、一寸法師の御連中まで！

興奮した誰かが、天井に向けてピストルを撃つ。

ガラスの割れる音。乱痴気騒ぎに興じ、楽しげに踊りながらも、互いに睨み合ったり。

と、照明が、明滅し、浪漫的な音楽に変わる。

5

ジャック

……さあ、満場のクソつたれ諸君。……耳を澄まして御覧（ごろう）じろ。あの闇の向こうに瞳を凝（こ）らしたまへ。……第六感を惑（まど）わせる香（かぐわ）しき気配。あの漆のごときつややかな夜空から、我らの伝説が近づいて参ります。……そうですとも、暗黒街にきらめくスピードのクイーン。闇に開く満開の牡丹。禁断の花、女盗賊、黒蜥蜴様でございます！

豪華ないでたちの黒蜥蜴が、奥より登場。

仮面の男女は、黒蜥蜴を遠巻きに、魅入られたように見守る。

黒蜥蜴

……皆さん、御機嫌よう。なんて素敵な夜。いつもは日の光に身をすくめているこの世の悪や犯罪たちが、闇夜にきらめく星々のように、こんなにも生き生きと輝いて見える。踊りましょう、私と。私は、地上に舞い降りた、黒い天使。

熱狂して黒蜥蜴を迎える人々。

静かに、ゆつくりと、美しく舞う。

一寸法師

黒蜥蜴！忘れなさんな。夜も闇も宝石も、お前さん一人のものじゃあない

つてな……。

黒蜥蜴

(婉然と微笑み)でも、美しいものは、みんな私のものだわ。

一寸法師の面々が、彼女を威嚇するように迫ると、タキシードも凛々しい
雨宮が、彼らの前に立ち塞がり、黒蜥蜴を護るようにエスコートする。一
寸法師と雨宮、敵意を剥き出しに睨み合う。
いきなり、乱闘が始まる。仮面が取れる雨宮。

一寸法師の手下三人ほどが、刃物を出す、雨宮は素手で、次々と叩き伏
せてゆく。熱狂する一同。

……と、音楽が止む。遠くにサイレンの響き。

ジャック

最低のお客人の御入来(ごじゅらい)です。残念ながら今宵はこれにてお
開きといたしましょう。この続きはぜひ近々(きんきん)。オルヴォアール！再見
(ツアイチェン)！多保重(ドオバオジョン)。「お気をつけて」！

明かりが次々に落とされる。幻のように消え去る人々。
入れ違いに、波多野警部が飛び込んで来る。

波多野

御用だ！動くな！……(外の警官たちへ)逃がすな！東京中の悪党どもだ！二十面
相に、一寸法師。きつと黒蜥蜴もいる！逃がすな、追え！追え！

外では、乱入した警官たちの、怒声などの喧噪。

捨科白に追いかける波多野。

照明変化。道具替り。

第二景 明智探偵事務所

数日後。長閑な春の昼。

銀座にある、私立探偵明智小五郎の事務所兼住い。洋風だが、やや古ぼけ
ている。鎧戸のある窓。明智の机と、応接用の卓と椅子。本棚。中央に、
大きなベックリンの「死の島」の模写。方々に外国の雑誌や新聞が積み上
げられている。無造作に置かれた海外の骨董などあっても可。

ボサボサ頭の明智は、シャツを腕まくりし、机に足を投げ出して新聞を読
んでいる。それを見守る新聞記者の郷田、部下の井上。モダンな着物のマ
ユミがお茶を出しているところ。

明智 ……ブラボー。

井上 (新聞を受け取り) 先生、そんなにおもしろいのですか? (読む)

郷田 無礼なこと言っちゃいかんよ。俺が書いたんだぜ。おもしろくない訳がない。(明智へ) ねえ、明智さん。

井上 「大胆なり怪人怪盗共。帝都の深夜に仮面舞踏会……」

マユミ おもしろそう!

郷田 だろう?

明智 (部下へ) 本当に僕に招待状は来ていなかったかい?

マユミ (微笑) 残念ながら。

井上 「畢竟(ひっきょう)、市民の安寧を守るは、警察にはあらずして、我らが名探偵明智小五郎君の頭脳を置いて他にある可けんや。」

郷田 どうです? 明智先生。この一件に何かご感想を頂戴できませんか。警察が大間抜けに手をこまねいているうちに、近ごろの怪盗共のつけ上がるまいことか。今の帝都は、さながら百鬼夜行ですぜ。

低く扉をノックする音。マユミが出て行く。

郷田 市民は、先生が、その居心地のよさそうな椅子から立ち上がるのを、待ち焦がれているのですよ。

明智 生憎、僕はこのボロ椅子にだらしなく沈み込んでいるのが大好きなんです。僕はただ……、ただ……、

郷田 ただ?

明智 不可解で、謎に満ちた犯罪を解くのが好きただけなんだ。犯罪者だって、たまにはダンスパーティーぐらいやりたいでしょう。

郷田 (メモをとり) 「犯罪者にも、舞踏会を開く自由あり」と……。

井上 先生! また、叩かれますよ。

下手の入口より、波多野警部が入って来る。続くマユミ。

波多野 ……明智先生は、人に誤解されるのがお好きだからなあ。

郷田 (ギョツとして振り向き、立ち上がる)

波多野 曰く「高等遊民」。曰く「金の亡者」。曰く「犯罪の弁護者」と……。

明智 みんな正解です。お珍しいですね、波多野さん、こんなぼろ家まで。

波多野 表敬訪問って奴さ。この国の民衆は、お前さんのそういう天の邪鬼(じゃく)ぶりが大層お気に入りらしい。(郷田へ) 「日々(にちにち) 新報」の郷田……だよな。

郷田 はい。いつもお世話になっております。(深く一礼)

波多野 (握手)「大間拔けに手をこまねいている」警視庁の、波多野だ。

郷田 え？はは。

波多野 なかなかいい記事だった。

郷田 いやあ、とんでもない。便所紙にもならんデータラメです。では、私は、このあたりで……はい。(帰り支度)

波多野 あれを読んで、俺はこう思ったんだ。「この記事を書いた人物は、明らかに、あの仮面舞踏会を目撃している。しかし、なぜ、あの集会を事前に知っていたのか」と。

郷田 (ぎくつ)ええ？……まさか。私みたいな三流記者が、二十面相や黒蜥蜴の秘密倶楽部に潜入出来ましかつて。想像ですよ。妄想。

明智 郷田さん、次回の健筆を楽しみにしています。

と、出口の方へこなす。

郷田 先生、またよろしく。(波多野へ)警部さん。失礼いたします……!!

郷田、逃げるように去る。

波多野 (明智へ寄り)あんな奴に、想像力だけで、あの記事が書けると思うか？ 8

明智 (微笑み)……彼は見た目よりずっと素直な人間ですね。己が見たことを全て書かずにはいられない。

波多野 だろう？

明智 どだい「怪盗」と呼ばれたがる連中は、自己顕示欲という病にとりつかれている。世間から身を隠したい癖に、その実、必ず誰かに見てもらわないではいられない。こんなことで、彼らは尻尾は出しません。

波多野 ……明智。三年前の大阪の宝石商の事件。あれを忘れたわけじゃなからう？

明智 当たり前でしょう。

波多野 あの時はな……、あと少しのところ黒蜥蜴を捕まえられたんだ。お前が首を突っ込んでこなければな。

明智 私のせい？

波多野 二の舞いはごめんだからな。(行きかける)

明智 郷田さんを叩いても、何も出やしませんよ。

波多野 こればかりは、俺の方が玄人なんですね。……ああ、あの大阪の宝石屋の娘、なんて言っただけ。生意気そうな。

明智 早苗さん、ですか？

波多野 そうそう、早苗。今頃、いい娘になつてらるだろうな。(マユミに)チャオ、チャオ。

波多野、出て行く。見送る一同。

マユミ 何しに来たんです？波多野警部。

井上 捜査が手詰まりになると先生のところへ現れますね。

マユミ (思い至り)じゃあ、郷田記者は、悪党どもに「利用されている」ってことですか？

明智 しかし、お陰で久しぶりに黒蜥蜴の情報を手にすることが出来た。彼女が、三年の眠りから目覚めたということは確かだ。(と微笑)

マユミ 三年前というのが、大阪の宝石盗難事件ですね。

明智 あの時は、(波多野の去った方をこなし)警察に引っ掻き回されて、逃げられてしまったんだ。

マユミ ……先生？お嬉しそうですね。そんなに美人なのですか？黒蜥蜴は。

明智 さあ。お目にかかったことはまだないからね。ただの宝石狂いではないというが、一体……。

戸の向こうより、女性が案内を請う。

春の声 あのう、明智探偵様、おいででございますようか。私、大阪より参りました岩瀬商
会の者でございますが。

9

明智の瞳が輝いた。二人も驚きを隠せない。

明智 (微笑)おいでなすった。通してくれたまえ。

井上 はい。

春を迎え入れる。

春 ごめん下さいまし。お初にお目にかかります。私、柏原春と申します。大阪の天満
で宝石を商いしております岩瀬庄兵衛のもとに奉公いたしております。本日は手前
主人の代理といたしましたして、内々におうかがいいたした次第でございます。

明智 わざわざ大阪から。どうぞおかけ下さい。岩瀬さん、お変わりなく？

春 はい。お元気ではございますが、近頃、大層御心労あそばすことが起りまして、
また明智先生のお力を拝借いたしたく、私、お手紙を預かって参りました。

明智 それはそれは。

春、懐から大切そうに手紙を出す。明智、封を切って読み始める。

春は、手土産を、マユミがお茶を出す。春は、しきりと恐縮していたが、壁の絵に目を止める。

明智 (手紙を読みながら) ご存じですか?その絵を。もっとも模写ですがね。

春 え?……ええ……美しい絵でございますねえ……。

明智 さすがに日本一の宝石商、岩瀬家の女中さんだ。目が肥えている。

春 いえ、あの、ちょっと不思議な絵と存じましたものですから……。

井上 アルノルト・ベックリン。「死の島」という題だそうです。白いマントを着た人物が、柩を島へ上げるところのようです。

皆、絵に見入っていたが、明智、手紙を読み終え、

明智 お話はよく判りました。電話は盗聴されるといけませんので、私がお返事を書きましよう。お疲れのところご苦労ですが、春さんとおっしゃいましたね、岩瀬さんへお届け願いますわ。

春 はい。必ずお届けいたしますわ。

明智 (机に向かい、便箋を出し、部下へ) 一人娘の、早苗さんの誘拐を予告する脅迫状が届いたそうだ。「警察に知らせてくれるな、あくまでも内々に」という御依頼だ。

井上 差出人は?

明智 ……噂の、黒蜥蜴さ。

一同「え!」と、緊張が走る。

照明変化。道具替わり。

第三景 帝大の構内

その夜更け。

カンテラを提げた宿直の老人が、影絵のように現れる。続いて、黒いマントを羽織った影法師……黒蜥蜴だ。雨宮潤一が続く。

煉瓦造りらしき建物の中へ入って行く三人。鍵を開ける音。開く扉……暗さも暗し、周囲の様子は皆目判らないままに進む三人。

そうしているうちに、老人が「ここです」とこなして、二人を止め、闇の中へ消える。

雨宮 ……ここは、帝大の構内ですよね？随分中に入って来たようですが……。なんだ、この臭いは？消毒薬の臭い？

黒蜥蜴 あなたを殺すの。

雨宮 え？

黒蜥蜴 雨宮潤一という青年は、今夜この地上から姿を消すのよ。

雨宮 ……私が……消える？

黒蜥蜴 (笑って) ばかね。私を守って、一寸法師の手下を殴り殺して下すったわねえ。二人？三人？

雨宮 二人は……。

黒蜥蜴 お礼をさせて欲しいの。あんな秘密の舞踏会にも、蝙蝠のようなブンヤが舞い込んでいる。あなたはその凛々しい素顔を、あの記者にさらしてしまった……私のために。

雨宮 構やしませんよ。あなたのためとあらば……。

雨宮は黒蜥蜴に口づけしようとする。

と、白い布をかけた台車を押し、暗闇から戻る老人。

黒蜥蜴 御褒美よ。受け取って。

雨宮 ……これは……？

老人が布を持ち上げ、カンテラで照らす。驚く雨宮。

黒蜥蜴 弱虫ねえ。ここは解剖実習用の死体置き場。この若い男は、昨日死んだばかりなのです。この宿直のお爺さんは、私の古くからのお友達……。

老人 (ひっひっひ……と笑う)

黒蜥蜴 いつもあなたの仕事は完璧よ。(雨宮へ) 背格好も肉付きも、あなたにとってもよく似てはいなくて？違うのは顔だけ……。

雨宮 (死体をまじまじと見つめながら) ……あなたは……恐ろしい人だ……。

黒蜥蜴 (心から不思議そうに) え？……どうして？

雨宮 どうして……。

黒蜥蜴 (無邪気に) 人間一人この世の中から抹殺してしまうのだから、こんな手品くらい使わなくちゃ。さ、車まで運んで頂戴。ボクサーだった雨宮潤一さんの死体よ。

雨宮 これを運ぶ俺は……誰なんです？

黒蜥蜴 この世には居ない、新しい人間。(微笑し) 今夜からあなたは、新しい世界を……私だけのために生きることになったのよ……。

雨宮

(魅入られたように) ……はい……あなただけのために……

うながされて、布に包んで、死体を運ぶ雨宮。

黒蜥蜴

あなたの服を着せ、彼らに襲われたように見せかけましょうか。ああ、顔は潰しておいた方がいいわね……

ひそひそと捨科白が聞こえる中、三人の姿は夜の霧に消えてゆく。道具替わり。

第四景

ヤマトホテル

東京、日比谷にある高級ホテル。岩瀬父娘が泊る十三号室。当時のスイートルームである。中央の部屋は広く、ソファ、テーブル、椅子。正面に廊下へ出る扉。下手に暖炉。蓄音機。花台に満開の桃の花。重厚で趣味の良
い調度の数々。
12

上手側は、寝室の扉。そこを開けると、ベッドが二つ。(完全に見えなくとも可)。さらにその向こうは窓の心。
下手に、廊下、二十一号室の扉が見える。

半月後の春の夜。

夕食後のゆったりとした時間をくつろぐ岩瀬庄兵衛と、一人娘の早苗。女中の春。岩瀬はブランデー。岩瀬は紬の羽織に袴。早苗は、やや袂の長い明るい色のお召。トランプで一人占いをしている。

ノックの音。

それまで憂鬱そうだった早苗の顔が明るくなる。岩瀬も喜色を浮かべ、懐中時計を出す。

岩瀬

見事に約束どおりだな。

岩瀬、懐から鍵を出して、自ら開けて出迎える。

スーツにソフト。前景とは打って変わってダンディーな明智が入ってくる。

明智 (帽子を取り、慇懃に) お待たせいたしました。明智小五郎です。

岩瀬 いやあ、しばらく。(手を取り) 今度のことでは、まったくよく引き受けて下さいました。ありがとうございます。

明智 こちらこそ、光栄です。

早苗 明智さん！お久しぶりでございます！

明智 「女っぷり」が一段と上がりましたね。

早苗 女は三年会わなければ別の生き物になりますのよ。

明智 (微笑) よく覚えておきましょう。

岩瀬 さあさあさあ、座って、座って。明智先生はブランデー……じゃない。スコッチ党でしたな。

春 ただ今。(明智へ) ようこそおいで下さいました。

明智 春さんには、なにかとお世話になりました。早苗さんのお見合いは、明日の十一時でしたね。

春 はい。ここの別棟にございます食堂で。

春は、一礼して、暖炉の上(あるいはワゴン)の酒の支度をする。明智は中央のソファ。岩瀬が上手、早苗が下手の椅子に座る。

13

岩瀬 明智さん。私は、どうもあの郵便という奴が解せませんでなあ。ああして脅迫状態で、きちんきちんと届けて寄越します。郵便局までぐるになって、私を脅しているようだ。

明智 それで、春さんをわざわざ大阪から。

岩瀬 大仰なようですが、大切な取引には、必ず人を立てるのが岩瀬家代々の慣(なら)いでしてね。

明智 麗しい習慣です。互いの身体(からだ)のかすかなぬくもりを感じられる空間で、直かに言葉を交わす。僕には、こういう時間が実に贅沢に思われます。犯罪もかくあつて欲しいと思っっているのです。

早苗 犯罪者とも、こうして直かに向き合って？

明智 探偵にとって、それが最高の贅沢でしょうね。(スコッチを一口) うーん、うまい。(立ち)ところが、実際の多くの犯罪は、そんな贅沢をゆるしてはくれません。(グラス片手に、部屋を確認して廻る。「ここを開けて」) よろしいですか？

岩瀬 ああ、どうぞ。

春 寝室でございます、お二人の。

早苗 構いませんわ。

明智 (開けて入る)

早苗 (一緒に部屋をのぞき) 窓には鉄格子が嵌めてありますから大丈夫ですわ。下には常夜灯がありますし。

明智 私の助手になるのは、三年前にあきらめたものではありませんか？

早苗 (悪戯っぽく) また少しうずいて参りましたの。

岩瀬 おいおい、黒蜥蜴に狙われているのは、お前自身なんだぞ。

早苗 あら、脅されているのはお父様よ。どうせ私は、石ころの身代(みのしろ)がせいぜいですわ。

岩瀬 なに？石ころ。

春 (制し) お嬢様。

岩瀬 「クレオパトラの涙」は、私の財産というより、国の宝で。「石」は構わんが、「ころ」はいかん、「ころ」は。

明智 「クレオパトラの涙」を狙うというからには、金が目的とは思えません。ただ、美しいもの、珍しいものを自分のものにしてみたいのでしょうか。

岩瀬 私も、宝石を商って随分長いことになりましたが、あの「クレオパトラの涙」だけは、金じゃない。どうしても私の手元においておきたい、そう思っています。

早苗 お父様も黒蜥蜴の同類ということですか？

岩瀬 父親を盗つ人と一緒にする奴があるか！

早苗 明智さん、私、もう小さい頃から慣れっこなんです、こういうの。日本一の宝石商の娘に生まれた宿命ですもの。

岩瀬 おいおい。

早苗 「親の因果が子に報い」という、あれね。

岩瀬 いい加減にしろ！明智さんの前だからと黙っていれば、調子に乗りおって！

早苗 (急に泣き伏し) もううんざりなんです、こんなこと！どうせ今度のことでも、本当の盗賊などであるものですか！お父様のお仕事仲間か、貧乏人の嫌がらせに違いないのよ！それは、家(うち)は大金持ちで、欲しいものはなんでも手にはいる。いつも綺麗なものを着て、美味しいものを食べて、全然不幸じゃないもの！いいえ、ものすごく幸せよ！いいえ、滅茶滅茶不幸だわ！ちっとも幸せなんかじゃない！これが私の宿命なんだわー！もう、嫌ー！(泣く)

たじろぐ岩瀬と明智。

春 (手慣れた風にハンカチを渡し) はい、お嬢様。ほんとうにうんざりでございますしたねえ。ほんとうに不幸でございますねえ。はい。でもやっぱり、綺麗なものを着て、美味しいものを召し上がって、幸せでございますねえ。

早苗 うん……。

岩瀬 (明智へ、声を潜め) 血なんですな。血。女房もそっくりで……。 (首を振り、汗

を拭く)

明智 いやあ……お察しします……。

春 さあ、お嬢様、明智先生がお驚きになっていらつしやいますわ。

早苗 ……そうですわね……。ごめんなさい、明智さん。

と、ノックの音。

春が、扉の方へ行つて言葉を交わし、

春 (喜び) 緑川の奥様でございますわ。

早苗 まあ、おば様!

岩瀬 (春へ鍵を渡し、明智へ) 私の上手得意でしてな。ま、「大戦成り金の有閑マダム」
いうところですか。

と言つたわりには、岩瀬も嬉しそう。

春が鍵を開け、着物姿の緑川夫人、婉然と登場。黒蜥蜴その人なり。

緑川 あの……ごめんなさい、こんなお時間に。

岩瀬 やあ、いらつしやい。

緑川 お客様?

岩瀬 ああ、構わん、構わん。(明智へ) よろしいですなあ。明智さん。

明智 もちろんです。

岩瀬 (嬉しそうに) このお方が、あの名探偵の明智先生。

緑川 まあ、あなたが、あの。まあ、まあ、まあ、お初にお目にかかりますわ。あなたの
お噂を山のように聞かされておりましたのよ、早苗さんから。まあ、そうですか

……あなたが。光栄でございますわ。失礼、私、金沢の緑川と申します。

明智です。

緑川 まあ、まあ、あなたが本物の名探偵明智小五郎様。素敵なお名前ですわあ。桂小五
郎から? 維新創業の名士、長州第一の英傑ですわね。

明智 親がつけたのです。

緑川 (見つめ) 待ち焦がれておりましたのよ、長い間……。

明智 ……どこかで……お目にかかつておりませんか?

緑川 いいえ。お気のせいですわ。私、よくそう言われますのよ。どうでしょう。

明智 これは失敬。こんな美しいお方に待たれていたとは、実に名誉です。

緑川 新聞のお写真で拝見するより、ずんと御立派じゃございませんか。様子がよくて、
涼しげで……。

岩瀬 大層お気に入りですな。いや、結構結構。奥さん、どうぞ。(席をすすめる)

緑川 おそれいますわ。ごめんなさい、ほんとうに凶々しくて。でも、お邪魔じゃございません？早苗さんの御警護の真っ最中でいらっしやいましょう？

早苗 (あわてて) だめよ、おば様。内緒なのですから！

緑川 (口を抑え) ま。

明智 (苦笑)

岩瀬 (苦笑) おしゃべりなのだから、全く。

緑川 (色っぽい目で岩瀬を見つめ) ごめんなさい……。

岩瀬 (ぐずぐずになって) いやいやいや、あなたのことじゃない。娘の奴です、ほんともう、いやいやいや。

早苗 (明智へ) おば様は、ちょうど東京の宝石展をご覧になりいらしていたのね。さつき下でお目にかかって、私、思わず、明智さんが今夜お見えになるのよ、って。ごめんなさい。

緑川 もともと私、探偵小説の愛読者でございまして、江戸川乱歩先生が大の虜なんですのよ。ほら、(小物入れから写真を出し) この間、先生のお宅にお邪魔して、一緒にお写真を撮らせていただいたんですの。まあ、さぞご迷惑だったと思いますけど。(楽しそうに笑い) それでね、こちらの早苗さんとお会いする度にあなたのお話を聞かされていたのですもの。のぼせ上がってしまった。「じゃあ、ちょっとだけお目にかかれなにかしら？お願い、早苗さん」って押しかけてしまいましたの。すみません。

明智 (微笑) 乱歩先生は、私も近しくさせていただいております。

緑川 まあ、それじゃ、今度、一緒に先生とお食事でもいかがですか？

明智 光栄です。

緑川 まあ、嬉しいわあ。まあ、どうしましょう。ねえ、明智さん……。

早苗 ずるいわ、おば様。勝手にお二人でそんなに。私の護衛の先生なのですからね。

緑川 あら。……ごめんなさい。さすがに少し凶々し過ぎましたわね。失礼いたしました。明智さん。岩瀬さんも、本当に、はしたないですわねえ。

岩瀬 いやいやいや、あなたはいいんです。

明智 僕は、今夜はここに泊まります。どうぞ、いつものようにお話をなすって行って下さい。

緑川 まあ、お優しいのねえ。あ、(と嬉しそうに) あの脅迫状というのも、早苗さん、ご自分でお書きになったのじゃなくて？明智さんに来ていただくために。(明智を見て) 早苗さんが、お見合いをしたくないって言い出すのも無理はないわ。

早苗 おば様！

緑川 あ。(また、口を抑える)

岩瀬 (早苗を睨み) そんなことまで申し上げているのか？

緑川 ごめんなさい……。

岩瀬 いやいやいや、あなたはいい、あなたは。ねえ、明智さん。

緑川 (立って) ごめんなさい、私も(お酒を) いただけようかしら。

春 ただ今。

緑川 いいのよ、いいのよ。自分でやるわ。それより、旦那様のグラスを。

春 はい。

緑川 明智さんも、いかが？

明智 (グラスを揚げ) まだこれが。

緑川 そうですか？……素敵な晩になりそうですわ。レコードを選んで下さらない？

明智 いいですね。

緑川は、春の持つて来た岩瀬のグラスに、ブランデーを注ぐ。と同時に、皆に見えないように、睡眠薬を入れる。

明智 (レコードを選びながら) お見合いのお相手は、子爵家の御曹司とうかがいました
が。

岩瀬 それはもう、私ら平民には、もったいないようなお話でしてな。

早苗 お父様のお金が目当てなのですわ。

岩瀬 早苗……！

春 お嬢様、お慎みあそばせ。奥様からも、くれぐれも、と、私……。

早苗 判っています。ごめんなさい。

緑川 お金なんてものはね、生命(いのち)を賭ける程のものじゃないわ。でも、美しい音楽、美しい絵、美しい宝石……本当に美しいものは、人生を賭けるに相応(ふさわ)しい。人は、美しいもののために、生きるべきなのだわ……。あら、いい曲ねえ。さすが明智さん。私の捜している美しい何かを、ちゃんと見つけだして下さるなんて。

明智 私も、美しいもののために生命を賭けているのです。ただ、僕の場合、それは宝石などの形のある「もの」ではなく、美しい何か……。

緑川 (探るように) 犯罪の謎を解く……？

明智 さあ……。黒蜥蜴が、「クレオパトラの涙」を欲するように、私も、その何かを手にしただけなのかもしれません。

この間、早苗と春は、知っている曲とあって、手を取って踊りだす。

早苗 これなら踊れるわ。

春 お嬢様、ご上達なさいましたわ……。

岩瀬 奥さん、緑川さん……いかがですか。

緑川 ええ、喜んで。

岩瀬 こう見えますしても、以前バリで随分……。 (と、ステップを決めようとして、足がもつれる)

早苗 お父様! (制し)

春 旦那様、少しお過ごしになられておられますよ。

岩瀬 そうか? いやあ、酔ったのか……。 (ソファに深く座る)

早苗 (悪戯っぽく) ねえ、おば様。明智さんとお踊りになってみたら?

緑川 私が? 明智さんと?

早苗 ええ。

緑川 (明智を見て) ……いかが?

明智 喜んで。

早苗 ちょっと待って。(レコードを替える) お二人なら、これよ、これ。

緑川 ま。本当に。光栄ですわ。

明智、手を差し出し、二人、静かに踊りだす。タンゴである。

早苗 お似合いだわ。なんて素敵なの……。

春 ほんとうに……。

緑川 誰かに写真でも撮っておいてもらいたいわ。

と、廊下で男の言い合う声。

踊りをやめ、レコードを止める明智。

と、廊下をうろついていた郷田と、それを咎めるボーイの声。

郷田 ……岩瀬商会の社長の部屋だろ? ここが。

ボーイ 困ります。勝手にこの階へお入りになっては……!

郷田 明智さん! いらっしやるんでしょー!

明智 また、あいつか……。 皆さん、一寸の間(ま)、失礼。

早苗、父から鍵を借り、春に開けさせる。

明智、出て行く。

郷田 あ、明智さん! やっぱりここだ!

明智 困るなあ、こんな処にまで……。

明智が郷田を連れて、向こうへ行く気配。

早苗 誰かしら……。

春 たちのよくない新聞記者みたいでございますよ。

緑川 明智さんに群がっているのよ。名探偵の行くところ、必ず獲物の匂いがするのね。

廊下に、明智と郷田が現れている。

郷田 ……頼みますよ、何か事件なんでしょ？明智さんが出張（でば）るなんて。

明智 ……誰から聞いたのだい？ここにいてるって。

郷田 （ずるそうに）この間は参りましたよ、あの後。随分、絞られましたからねえ……。

いっそ、波多野警部に聞いてみようかなあ……。

明智 （苦り切って）ともかく、下に来たまえ。

郷田 へへへ……。ありがてえ。

明智、郷田、退場。

緑川 あらあら、岩瀬さん。こんなところで船を漕ぎ出したわ。

早苗 お父様。起きて。寝るならきちんと着替えて下さい。

春 旦那様。御召し替え下さいまし。

岩瀬 ……いや……奥さん、すみません。急に眠気がして参りましたな……。

緑川 御心労続きでいらっしやるもの。さ、構わずお休みになつて。

岩瀬 すっかり酒に弱くなって……。では奥さん、失礼ですが……。

春 旦那様、鍵を……。

春が寝室へ連れて行き、パジャマに着替えさせ、ベッドへ。

早苗 ごめんなさい。お父様ったら、せっかくおば様がいらして下さったのに……。

緑川 いいのよ。早苗さん。そうだ、ちょうどいいわ。お相手から、上手にお見合いを断

らせる方法を御伝授して差し上げるわ。

早苗 え？ほんとうに？断らせる方法？

緑川 私はいつだって、美しいあなたの味方よ。私のお部屋にいらっしやいな。丁度、あ

なたに着ていただきたいお着物があるのよ。大胆でモダンで。それに、お化粧も少

し教えて差し上げるわ。子爵様のおぼっちゃまなんぞには、とてもお気に召さない

類いの。

早苗 素敵！どんなお化粧品お使いなの？ようし……（と、思い立って）春！春！

岩瀬の着物を片付けていたが、

春 はい。

早苗 お前、今夜はもういいわ。自分の部屋に戻ってお休み。

春 さようございますか。では、ボーイに片付けさせましょう。

早苗 いいわ、このままにしておいて。おば様と二人きりで大切なお話があるのですから。

春 かしこまりました。呼びの折は、交換に三十二号室とお申し付け下さいまし。

早苗 判ったわ。お下がり。

春 お休みなさいまし。

緑川 ご苦労様。

春、退出。

緑川と早苗、ほほ笑み合って、

緑川 さあ、参りましょう。

早苗 ええ！……あ、でも、明智さんが戻られたらびっくりなさるわ、きつと。

緑川 構やしませんよ。お嬢様の御警護をおおせつかっておきながら、こうして易々と早苗さんを私につれ去られてしまうなんて。名探偵、大失策。

早苗 (笑って) そうね。何があっても涼しい顔の明智さんが、びっくりしてあわてふた²⁰めくのが見たいわ！

緑川 それこそ素晴らしい見物(みもの)ね。さあ、行きましょう。……新しい世界が待っているわ。

早苗 ええ。

嬉しげに早苗を伴い、緑川夫人、そつと部屋を出る。

二人の姿が、二十一号室の前に現れる。夫人は、周囲を気にしながら、早苗とその部屋へ入る。

ややあって、その部屋から、眼鏡に髭の紳士、山川健作が登場。大型の旅行鞆を運び出す。

ボーイが登場。山川と数語交わして、鞆を台車に乗せ、運び去る。

風呂敷包みを持った緑川夫人が出て来る。山川と見交わし、中央の部屋へ、そつと戻る。山川は、コートを手に、帽子をかぶり、退場。

夫人は、部屋の灯火を消し、寝室へ入り、早苗のベッドの毛布をめくり、風呂敷包みを開き、なにやら細工を始める……。

岩瀬

(寝たまま) うーん、なんだ、まだ寝てないのか?……うーん、お前も早く……寝

なさい……。

緑川 (顔を見せないように、早苗の声を真似て) ……ええ……おやすみなさい……お父様……。

岩瀬 ああ……おやすみ……ムニヤムニヤ……。

照明変化。時間経過。

照明が戻る。五、六分後。

ベッド脇の衝立に、早苗の着物が無造作にかけてあり、早苗は背を向けてベッドで寝ているように見える。

明智が戻って来る。

明智 (鍵がかかっている) ……無用心だな。……(寝室へ入り、ゆする) 岩瀬さん。岩瀬さん。

岩瀬 (機嫌悪く) 何だ、もう……寝かしてくれ……。

明智 お嬢さんは……お休みのようですね。

岩瀬 見れば判るでしょう？

明智 鍵は？鍵をお貸し下さい。今夜は、私が見張っておりますから、安心してお休み下さい。

岩瀬 (ベッドサイドの鍵を渡す) ……では……頼む……。

明智 すみませんが、ここは開けておきますよ。

岩瀬、ムニヤムニヤと眠りに落ちる。

スコッチを注ぎ、椅子に腰掛け、寝室を見守る明智。

静かなノックの音。

明智 (扉へ寄り) どなたです。

緑川 私です。緑川です。

明智 ……(開ける)

緑川夫人が、心配そうに顔を出す。

緑川 あら、もう皆さんお休みになってしまわれたのですか？

明智 ええ、睡眠剤でもお服みになっておられるのでしょうか。

緑川 ちよっといいかしら。

明智 ええ、どうぞ。

緑川 (入って来て) まあ、早苗さんもぐつすり休んでおられるようですわよ。ああ、よ

かった。(とベッドサイドで毛布など少し直しながら) お若いのねえ。ほんとうにぐつすり……。 (明智の前へ戻り) 脅迫状には、なんと書いてあったのですか？

明智 「今夜の十二時に注意せよ」と。

緑川 まあ、おそろしい！十二時ってあなた、もう一時間もないじゃありませんか？明智さん、どうなさるおつもり？

明智 どんな怪盗でも、僕の目をかすめることは不可能です。たとえば、黒蜥蜴でも。

緑川 まあ……自信がおりなのね。それでこそ天下の明智小五郎ですわ。でも、今度だけは、何か別の、飛び抜けた魔力を持った、恐ろしい相手のような気がしますわ……。 あなたのまだ出会ったことのない……。

明智 (笑って) 奥さんは、大層黒蜥蜴を御鼻負だ。では、一つ賭けをしましょう。僕が勝つか、黒蜥蜴が勝つか。

緑川 まあ、賭けですって？素敵ですわ。明智さんとなら、私、一番大切な、この指輪を賭けても惜しくはないわ。

明智 本気ですか？じゃあ、もし僕が失敗して、早苗さんが誘拐されるようなことがあれば……そうですわね……僕は何を賭けましょうか。

緑川 ……探偵。……探偵というお仕事をお賭けになりませんか？

明智 面白い。女のあなたが、命から二番目の宝石を投げ出すのに、男の僕たるもの、職業くらいなんでもないことですね。

22

緑川 素晴らしいわ……。あなたが探偵という冠をお賭けになるのなら、私も、持っている宝石の全てを賭けなければ……。よくてよ。
明智 悪くないですわね……。

二人、ほほ笑んで、しばし見つめ合う。

緑川 ……静かですわね。

明智 ええ……。

緑川 ……不思議だわ……。あなた、何ですか、楽しそうに見えますもの。

明智 探偵でもしていなければ、このような劇的な時間は味わえませんかからね。

緑川 お邪魔でしょうけれど、私もお付き合いさせていただきますわ。

明智 お心のままに……。

夫人は、暖炉の上のランプを見つめ、

緑川 十二時には、まだ間がございます。カードでもいいかが？

明智 結構ですわね。

二人、ポーカーを始める。
張り詰めた、しかし、静かな時間だけが流れて行く。勝負を二、三回。

明智 …… 蜥蜴も……。

緑川 え？

明智 鳴くのでしょうか。

緑川 蜥蜴が？

明智 ええ。ヤモリは、鳴きますよね、こんな夜は。

緑川 ああ。……そうですわね。

明智 蜥蜴は、好きですか？

緑川 ……どう見えて？

明智 さあ。子供の頃、飼っていたところがあるんです。あの冷たく光る肌が、妙になまめかしくてね。

緑川 ませた子供だったのね。

明智 いつもじっと、遠くを見つめていた。人間よりよほど高等な生き物のような気がしていましたよ。

緑川 それで、その、蜥蜴は？

明智 ある夜、いなくなっていました。

緑川 自由が欲しくなったのね、きっと。

明智 ……もう、そろそろ十二時になりますわ。

緑川 (懐中時計を見て) まだ三十秒あります。

明智 ……あなたは少し黒蜥蜴をみそこなっておられるのじゃなくて？ (不安そうに)

明智 ……そういう内にも、この窓の外の暗がりだが、どこからかそっと忍び込んで、人の形となつて、早苗さんを軽々とベッドから抱き取って行くのではないかしら……。

明智 ……そんなに、黒蜥蜴の腕をお信じになるのですか？

緑川 ……ええ。

明智 (カードを見せる)。

緑川 (開き、微笑)。

明智 (苦笑して) カードは僕の負けですが、先程の賭けは、僕の勝ちですね。十二時を過ぎたのに、何事も起こらない。……あなたの宝石をいただきましょう。

緑川 明智さん。(静かに) あなたは本当に賭けにお勝ちになったとお思いなの……？

明智 もちろん……。 (ふと、不安な表情) え？

緑川 ……あなたはまだ、早苗さんがかどわかされなかったかどうか、確かめてもごらんにならないじゃありませんか。

明智 (立ち上がり) ……そんな馬鹿な……。 (寝室へ入り) 岩瀬さん、岩瀬さん!

岩瀬 ……な、なんだ? どうしました?

明智 お嬢さんを見て下さい。そこに休んでいるのは、本当にお嬢さんですか?

岩瀬 (半ば寝ぼけて) 明智さん……! 何を……この夜中……早苗が……。

岩瀬が、早苗を覗き込み、言葉が切れる。

岩瀬 ああ……! !

岩瀬が布団をはぐと、マネキンの首だけ。驚く明智。

岩瀬 やられた……! 明智さん! やられた! やられた……娘を……! (明智へ) あんなに
お願いしていたのに、なんとこの様子だ! (明智をどけ) け、警察だ! やつぱり警察
を呼んでおけばよかったんだ……!

明智 いや、お待ち下さい。

岩瀬 君に頼った私が愚かだった……。どいてくれ、警察へ電話だ!

二人を眺めていた夫人か、堪え切れずに笑い出す。

24

緑川 あら、ごめんなさい。でも名探偵と呼ばれる明智さんが、そうして一所懸命にお人
形の首の番をしていらっしやっただなんて……。

明智は、屈辱に耐え、じっと考えにふけっている。

岩瀬が電話を取ろうとした時に、ベルが鳴る。

岩瀬 (驚くが、取る) ……もしもし……ああ……。 明智さん、君にだ。

明智 (受話器を受け取り) もしもし、ああ、僕だ。 ……うん……そうか。 ……十分で駆
けつけたまえ。いいか。(と切る)

岩瀬 警察を、早く!

明智 まだ警察を呼ぶには及びません。

岩瀬 何?

明智 少し僕に考えさせて下さい。(じっと考え込む)

岩瀬 明智さん……!

緑川 (遮るように) 岩瀬さん、明智さんはね、お嬢さんのことなんかお考えになるゆと
りなどありませんのよ。明智さんが、今何を考えているか当ててみましょうか? 私
との賭けのこと。ね、そうでしょう?

岩瀬 賭け？

緑川 明智さんは、私との賭けに負けたことが決まったものだから、あんなにうなだれていらっしやるのよ。何しろ、探偵をお辞めにならなければならなくなったものだから……！

明智 (顔を上げ) いや、奥さん。僕がうなだれていたのは、あなたをお気の毒に思ったからです。

緑川 ま、私が気の毒ですって？何故？

明智 それは……賭けに負けたのは僕ではなく、奥さん、あなただからです。

緑川 まあ、まあ、まあ、何をおっしゃいますの？負け惜しみね。

明智 負け惜しみでしょうか。

緑川 ええ、負け惜しみですとも。賊を捕らえもなさらないで、そんなこと……。

明智 ああ、では、僕が犯人を逃がしてしまったとも思っている。

緑川 ……え？

明智 僕はちゃんと、その曲者を捕らえたのです。

岩瀬 ど、どういうことだ……！

緑川 (笑い出し)……明智さん？明智さんほどのお方でも、うろたえて錯乱なさるのねえ。

明智 錯乱しているのではない証しをお聞かせしましょうか。

緑川 何ですって？

明智 そうですねえ、例えば……あなたのお友達の山川健作と名乗る人物が、このホテルを出て、どこへ行かれたのか。

緑川 ……。

明智 彼の大型トラックの中には、一体何が入っていたのか、あなたの失敗は、ご自分に仲間がいるのに、僕は独りぼっちだと早合点なすったことだ。僕には、山川健作氏を追跡するくらい容易くやっつてのける優秀な部下がいます。岩瀬さん、ご安心下さい。早苗さんはご無事です。大丈夫。大丈夫です。

岩瀬 ……早苗は無事なんですな？

明智 ええ。安心して下さい。

岩瀬 ああ、ありがたい。明智さん、すまんかった。よかった、よかったあ……。

明智 ……さあ、緑川夫人。お約束の通り、あなたの宝石をすっかり頂くことにしましょうかね。

緑川 ……その、山川さんって方は、どうなすって？

明智 残念ながら、逃亡してしまっただけです。

緑川 まあ、犯人を取り逃がしてしまっただけ……。

明智 とんでもない。

岩瀬 捕まえたのか？犯人は何処におる！

明智 我々の目の前に……。(紹介するように、手を伸ばし)

岩瀬 え？……目の前にとって……。この……。ええ？

明智 この緑川夫人こそ、恐ろしい女盗賊、早苗さんを誘拐した張本人、あの、黒蜥蜴です。

岩瀬 ええええええ！

緑川 (うろたえて見せる)とんでもない！山川さんが何をなさろうと、私存じませんわ。濡れ衣です！ひどい言い掛かりだわ……。

ノックの音。明智、鍵を開ける。

明智 生きた証拠をお見せしましょう。

扉を開けると、井上とマユミに抱き抱えられるように、早苗が登場。

岩瀬 早苗ー！

早苗 お父様……！

岩瀬 ああ、よかった！よかった！

抱き合う父娘。が、観念したように黙っていた黒蜥蜴だが、

26

緑川 明智さん、右のポケットにさわってご覧なさい。

明智 (はっとする)

緑川 (ピストルを向け)ダンスの記念に、写真を撮れなかったので、こちらを頂戴いたしましたの。皆さん、手を挙げて下さらない。私だって、明智さんに劣らず、射撃の名手なのよ。それに、私の方は、人間の命なんて、なんとも思っておりませんよ。

攻守入れ替わって、じりじり下る明智たち。

緑川 (扉まで来て鍵を出し)明智さん、今日の勝負は、引き分けということにしておきましょう。じゃあ、サヨナラ。

夫人、扉を占め、外から鍵をかける。

明智 くそ……！！

井上が扉を体当たりで壊そうと試みるが、無駄と判り電話へ。

井上 (電話を取り) もしもし、交換台?こちら明智です!そうです、支配人に伝えて下さい!出入口に人を配置して、緑川夫人を捕まえて下さい!ええ、あの緑川夫人です、二十一号室の。あの人が今、外出するから、それを必ず止めて下さい!重大犯人なので!絶対!絶対に夫人を外へ出してはいけませんよ!……!!それから十三号室の合鍵を持って来て下さい!急いで!……!!

などなど、声が続いている中、明智は、テーブルのトランプを手にする。

明智 スペードのクイーン……。あれが黒蜥蜴か……。

どこか楽しそうな微笑。

照明変化。奥より、コートの襟を立て、深くソフトをかぶった「男装」の黒蜥蜴、登場。

黒蜥蜴 あれが明智小五郎……。明智さん、次の勝負は、私のものよ。必ず……。御機嫌よう、名探偵。

明智の姿と、黒蜥蜴を見せて、幕。

27

第二幕
第五景 岩瀬邸

A 「早苗の部屋」

幕が上がる。

半月ほど後。晴れた夕暮れ。

清楚な明るい部屋。下手に扉。中央にピアノ。調度は、椅子がある程度でよい。

早苗が、つまらなそうにピアノを弾いている。その手を止め、た

め息をつく。

と、ノックの音。

早苗 ……だれ？

扉から顔を出したのは波多野警部だ。

波多野 ……私です。

早苗 警部さん……。外にうちの者は、おりませんでした？

波多野 女中さんですか？書生さんもいらっしやいましたが。

早苗 誰も入れないでって言うておいたのに。

波多野 ああ、叱らないでやって下さい。なにせ勤めでございますから、この広い御屋敷を見廻るのが。そして、悪魔の手からお嬢さんをお護りすることが。

波多野は、一輪の薔薇を手品のように出し、早苗に捧げる。

早苗 まあ。私のために？

波多野 そう、その笑顔です。人は、幸せになるにはどうしたらよいかと思悩むものですが、その微笑みが幸せの扉を開ける鍵だという簡単なことを忘_れれています。三年前、初めてお目にかかった時の早苗さんは、この薔薇のように、微笑あふれる天使でした。

早苗 私は、もう子供ではなくてよ。

波多野 見事なレディになりました。

早苗 女は三年会わなければ別の生き物になりますのよ。

波多野 (微笑) よく存じております。

早苗 ふーん。大人なのね。

波多野 私がお嬢さんの警固をおおせつかってから三日。たった三日の間、私と言葉を交わしているだけで、ほら、こんなに明るい、もうそれまでの鬱々とした早苗さんではありません。

早苗 そうかしら。

波多野 そうですとも。誘拐の予告状なんでものは、出来の悪いファンレターと一緒です。斜めに読んで屑籠に放り投げて、誰も文句は言いやしません。(ピアノに寄り) それに、あのようにため息まじりに弾いては、ピアノも哀しいでしょう。

早苗 ……さっき、私が弾いていた……？

波多野 ええ、シヨパンのプレリユード十五番、変ニ長調。

早苗 (驚き) よく御存じですね。

波多野 美しい曲ですが、今の早苗さんにはもっと心ときめくものが相応しい。
早苗 どんな？

波多野は、ピアノをさらさらと鳴らす。

早苗 ……素敵！ 警部さんなのに。

波多野 (笑って) ピアノくらい弾けなくては警部にはなれませんから。

波多野、弾き語りのように、歌い始める。たとえば「ダイナ」である。

よきところより、ピアノから、伴奏音楽に乗り替わって、波多野は、歌いながら早苗の手を取って、踊り出す。

戸惑いながら、嬉しくなって来る早苗。踊る二人。

と、扉から、早苗の母、岩瀬夫人が飛び込んで来る。

夫人 (立ち尽くし) ……早苗！

早苗 お母様……。

夫人 ……なんで踊っているんですか！それも、そんな淫らな曲！お前、どこで覚えて来たの！

波多野 いやあ、奥さん。外にも出られないお嬢様を、少しお慰め……。

夫人 (聞いていない) 娘を守って下さいとは申し上げましたが、踊って下さいなんて頼んでおりません！さ、早く、出て行って、外から警固をお願い致します！

早苗 お母様、違うのよ。

夫人 何が違うの！（波多野へ）早く出て行って下さい！

など捨て科白に波多野を追い出す夫人。混乱の中、転換。

B 「扉外」

しばらく後。

波多野警部と、取材をする記者の郷田、影井、白鳥。

影井 波多野警部！今度の脅迫状にも時間が指定されているのですか？

波多野 いいや。

白鳥 やはり、明智探偵の協力を仰ぐということですか？

波多野 俺が、何だって素人に助けを請わねばなんのだ？

白鳥 それはそうですよねえ……。

波多野 岩瀬会長も、これ以上まかせてはおけないという訳だな。ヤマトホテルでの明智の失態を、お前たちも書いたろう？

影井 黒蜥蜴と仲良くトランプをしている間に、娘さんを連れ去られたんですからねえ。

波多野 探偵失格だろうが。

郷田 (愛想笑い) 拳銃は盗まれる、部屋の鍵は取り上げられる。明智も「名探偵」かたなしですねえ。

波多野 明智の話題なんかもういいだろう。それより、この波多野十三郎の活躍をでっかく頼んむぜ。

影井 (メモを取りつつ) 「怪盗捕縛の為、東京より駆つけたる鬼の波多野警部、も、今回は勝算あり」と……。

波多野 (遮り) グラツツエ。さあ散った散った。良い子は早くおうちにお帰り。

など、言い散らして、下手へ去る。捨て科白に見送る一同。

白鳥 郷田さん、また抜け駆けは勘弁して下さいよ。何か、危ないツテを握っていきそうだなあ。

郷田 へへへ。商売、商売。

記者たち、収穫がないのをこぼしつつ退場しかける。と郷田の前へ、波多野が顔を出す。

郷田 (驚く) わ。びっくりさせないで下さいよ……。

波多野 ……気をつけろよ、お前も。

郷田 え? ……何をですか？

波多野 その「危ないツテ」だよ。

郷田 はは。いやだなあ、そんなものありやあしませんよ。

影井と白鳥、聞き耳を立てる。

波多野 (二人へ) チャオ、チャオ。(と懐から拳銃を出そうとする)

二人 ちゃ、ちゃお……。 (あわてて去る)

波多野 (郷田へ) この間のヤマトホテル。あれ、どうして知った? 明智がそこにいるって

ことを。

郷田 え？地道に張り付いていると、たまに、ああいうおこぼれにありつけるんですよ。

波多野 黒蜥蜴は、明智がお前をロビーで静めている隙に令嬢を連れ出した……。

郷田 ええ？俺がお先棒を担いだっていうんですか……？

波多野 (遮るように) 匿名の手紙か何か知らないがな、お前、黒蜥蜴にいいように使われているの、判ってる？

郷田 と、とんでもない！私は……。

波多野 俺もさ、手ぶらで江戸へ帰る訳にもいかないしき。その「おこぼれ」っていうの？ちよつと分けてもらえないかなあ。ねえ。郷田くん……。

波多野、不気味に優しく、郷田の肩など抱いて、退場。

道具替り。

C 「応接間」

中央に、各々に白い布を掛けた、新調のソファ。椅子二脚。テーブルなど適宜。

正面は、広い、床までの硝子戸が並び、向こうは広大な庭。さながら温室のような、見通しのよさ。

31

しばらく後。

上手より、岩瀬と夫人にいざなわれて、早苗、春が登場。

夫人 (明るく) ……みんなお前のためにしていることなのですから。もう少し明るい顔をして。な、ええか？お父様と私からの、プレゼントですよ。(少しだけ関西の訛りが残る)

春が、布を取って回る。明るい色の綺麗な織物のソファセットである。早苗の驚きと喜び。

早苗 まあ……！！

春 いかがでございます、お嬢様！

早苗 (嬉しくて) まあ……どうしましょ……。

岩瀬 どうだ、お気にめしたか？

早苗 ありがとうございます、お父様！(抱き着き) お母様も……！嬉しいー春！見て、どう？私の選んだ布は？派手過ぎる？

春　　とんでもない。さすが、お嬢様のお目は別格でございますわ。
岩瀬　今度大連（だいいん）に出す支店のソファや壁紙も、みな早苗に選んでもらうおうか。
早苗　本当？
夫人　あなたにしたら、近頃とびきりの思いつきですわ！けど、椅子を選ぶというのなら、思い切って、イタリーへ行くというのはどうでしょう。
早苗　イタリアへ！
夫人　どうです？ね、あなた！
岩瀬　波多野警部が許して下さるかなあ。
早苗　ちようどいいわ。波多野さんはイタリア帰りなんですよ？
岩瀬　そういう問題か？
夫人　あの人はあかんわ。
早苗　じゃ、明智さんならいいでしょう？
夫人　そやな。いつそ船に乗ってしまえば、いくら黒蜥蜴でも追いかけては来られませんもの。
春　　そうでございますとも！奥様！
早苗　（一遍に気持ちが悪くなって）そうよね。一カ月はずっと海の上ですものね。素敵よ、素敵！ね、お父様！
岩瀬　うーん。
早苗　お願い、お父様！私、もう、こんな暮し、辛抱できないんです。もう耐えられない……！（春の手を取る）
春　　（手を握り締め）お気の毒なお嬢様……。　（涙ぐむ）
岩瀬　たしかに、洋行という手があったんだな。
春　　そうでございますとも。
夫人　第一「クレオパトラの涙」が望みなんでしょう？早苗は関係ないのに。
春　　そうでございますとも。
早苗　イタリアかあ……。　（夢が膨らむ）素敵だわあ。いつそロンドン、パリも……。
夫人　明智先生、フランス語は？
岩瀬　おいおい、勝手に……。
春　　大丈夫！アルサーヌ・ルパンと、飛行機の上で対決なさいましたでしょう？通訳が乗っていたとは聞いておりませんわ。
夫人　素敵！ほな私も一緒に行きましょう！
早苗　え？お母様もー？
夫人　何ですの、その声は。嫌なら、お前はお留守番をなさい。お母様は、明智さんと一緒にローマへ行くわ。
一同　ええー……？

夫人 タイタニック号みたいな豪華なお船で、紺碧のアドリア海に行くの……！
早苗 お母様、ずるい！私も！

と、はしゃいでいたが、硝子戸の外に目をやった早苗が、突然叫び声を上げて椅子に倒れ込む。

早苗 (悲鳴)！

夫人 早苗！

岩瀬 早苗！(暮れなずむ庭を見て) 誰だ！

下手より、波多野が、飛び込んで来る。

波多野 どうしました！

岩瀬 (黙って、庭の人影を指さす)

波多野 ?……(苦々しく、庭の人影……私服の警部へ怒鳴る) どこを見張ってるんだ！それじゃ、ただの出歯亀だろうが、馬鹿者！

早苗 もう、嫌あ……！

夫人 (早苗を抱き、波多野へ) あなた、もうお引き取りいただきましょう！いくらなんでもこの子が可哀想です！早苗！可哀想な早苗……！

33

早苗 もう、嫌あ……！

岩瀬 (困惑) 大変申し訳ない。女子供の申すこととて、どうか御寛恕(かんじょ)を！(頭を下げる)

波多野 我々も、道楽でこんなことをやっている訳ではないのですがねえ……。

岩瀬 ごもつともでございます！お腹も立ちましようけど、ここは平に、平に……。

波多野 (庭の刑事に怒鳴る) お嬢さんから見えないように見張るんだ！

早苗 もつと嫌あ……！(泣く)

波多野 ……仕方ない。部下には外で見晴らせましょう。

岩瀬 まことに申し訳ございません！(と、波多野へもこなす)

波多野 え……俺も……？

早苗 (また、泣く) お母様……！

夫人 (一緒になって泣く) 早苗……！

春 (泣く) お嬢様……！

波多野、不快そうに出て行く。冷や汗を拭いていた岩瀬、一緒に泣きそう。

道具替り。

D 「扉外」

その夜。さらにしばらく後。
屋敷の方から、ピアノの音。ゆっくりとした「ダイナ」。波多野が、煙草をくゆらせながら耳を傾けている。

波多野 ……やっとな機嫌がなりましたか。……そうそう、そうでなつくちや……。

巡回する警官、登場。敬礼をして去る。
ヘッドライトの光が流れ、車の停車音。

警官の声 誰だ！

明智登場。明智の部下二人も続く。煙草を吐き捨てる波多野。

波多野 ……こんな遅くに、ドライブか？

明智 岩瀬さんからお電話を頂戴したものですから。

波多野 あの親父……。またトランプなら、俺も入れて。ブリッジにしよう。

明智 残念ながら、早苗さんのお守（も）りです。（部下へこなして去らせる）

波多野 お姫様なら……。…（ピアノを聞くこなし）ご機嫌麗しくあそばされているよ。（煙草をすすめる）

明智 （慇懃に断り）「クレオパトラの涙」のしまつてある場所は、岩瀬さんしか知らないそうです。家族を誘拐して脅す方が、たやすいということでしょう。

波多野 黒蜥蜴はそんなに美しかったのか。

明智 それはもう。

波多野 そんなにいい女だったのか。

明智 悪い女です。

波多野 なめてるのか。……逮捕したいなあ、この手で。……蜥蜴の刺青の入った白い餅肌
に、手錠をガチャリ……。くくう……。

明智 酒も、タンゴもボーカーも、なかなかのものでした。

波多野 お前も、逮捕したい。……あー！明智君。君、この間、ヤマトホテルからわざと逃
がしたんじゃないだろうなあ！おい……。

などと、波多野が騒いでいるのを制し、明智は耳を澄まし、

波多野 ？

明智 ピアノが止んでいる……。

二人、見合って、不吉な気分。
と、井上たちが集まって来る。

井上 先生！あれを……！

波多野 ……な、なんだ、あれは……！

井上 気球です！真っ黒に塗った軽気球です！

明智 上からか……！

波多野 南無三……！

慌てて屋敷内へ向かう一同。

道具替り。

E 「応接間」

再び応接間。誰もいない。

正面の硝子戸が開け放たれ、真っ暗な庭が広がっている。夜風にカーテンが揺れ、ソファに、べったりと大きな黒蜥蜴の絵が描かれている。 35

下手より、明智らが駆け込んで来る。続いて警察官、書生、女中たち。騒ぎを聞き付け、上手より、春、岩瀬、夫人ら、あたふたと登場。明智ら、硝子戸を抜け、庭へ出る。皆、空を見上げ、口々に叫ぶ。

夫人 早苗！早苗！

春 お嬢様！

岩瀬 明智さん、娘が！娘が！

夫人 あの気球よ！

波多野 畜生、何て奴だ！（周囲の警官へ）見えるか！籠の中に黒蜥蜴がいるはずだ！見えるか！

警官 （拳銃を撃つ）

波多野 馬鹿者！人質が乗っているのだ！

岩瀬 撃たんでくれー！撃つたらいかんー！

春 お嬢様ー！

人々、庭の上手奥の方へ、嵐のように走り去る。

人々の叫び声が少しづつ遠ざかって行く。

奇妙な静寂の間。

下手より、おそるおそるのぞいている女中や書生。庭より、狂乱の夫人が、
ふらふらになりながら戻り、ソファへ倒れ込む。

夫人 ……早苗……早苗……。

女中 奥様！しっかり！今、お水を、お持ちします！

と、夫人が叫び声を上げて、起き上がる。春も戻る。

夫人

(ソファの黒蜥蜴の絵を見て) きゃあー！なあに、これ！嫌！嫌、嫌、嫌やあー！
気色悪い！なんやの、こんなもの、誰か、早う向こうへ出しー！

春 奥様！（皆へ）さ、早く！向こうへ！

書生 は、はい！

夫人 ああ、早苗！早苗！あー、私の早苗が……！

書生や女中たち、おろおろソファを持ち上げ、下手へ運び出す。

夫人、またフラフラと庭の方へ出て行く。

間。

息をきらして、波多野ら、戻って来る。

岩瀬、悄然と戻り、明智、井上、マユミも戻る。

波多野

明智。このやり口は二十面相が使う手だろう？ 奴まで首を突っ込んで来たのか？

……鳶に油揚げ……？

岩瀬

娘は油揚げですか！ 私は、娘を守って下さいと、あんなに……！

波多野

(遮り) ああ、判ってます！ 機銃で撃ち落としてやる……！

波多野、下手へ退場。明智、ソファが無いことに気づく。

明智

?……ソファは？

岩瀬

それどころじゃないでしょう、娘を返してくれー！

明智

……しまった！

井上は、明智と顔を合わせると、下手へ走り去る。

マユミ 先生、それじゃあ！

明智 ……「人間椅子」か……。

岩瀬 「人間椅子」？

明智 (下手の方を見込みながら) 乱歩の小説にあるのです。人間を椅子の中に閉じ込めるというトリックが。

岩瀬 ……というところ？ここにあった、あの長椅子が？

明智 今頃、気球と反対の方角に向かってすつ飛ばす、長椅子を載せた自動車があるはずです。

岩瀬 じゃ、あの気球は……おとりか！

明智 多分。

マユミが、下手の椅子に手紙を見つける。

マユミ 先生。

読み始める明智。岩瀬ら、明智の周りに集まって来る。

照明変化。道具替わり。

黒蜥蜴の声 ……「お嬢様は確かにお預かりいたしました。お嬢さんを私からお買い戻しになるお気持ちはありませんか。もしそのお気持ちがあるのでしたら、左(さ)の条件によって商談に応じてもよいと考えます。代金。「クレオパトラの涙」⁷一個。支払い期日。明二十日、正(しょう)午後五時。支払い場所。天王寺公園内通天閣頂上の展望台。支払い方法。岩瀬庄兵衛氏、単身にて右(みぎ)時間までに現品を持参すること。右の条件に少しでも違背(いはい)したる場合、又は、このことを警察に告げ知らせたる場合、令嬢の死を以てこれに酬(む)いること。以上。四月吉日。岩瀬庄兵衛様。黒蜥蜴。」

第六景 新世界

翌る夕刻。

新世界の繁華街。天王寺公園の通天閣下の広場。

様々な出店が並び、闇市のような活気と混沌。

老若男女が行き交い、すぐ隣の色街、飛田の女たちも客を漁って往来する。

お祭のごとき陽気な空間。

風船を持った道化に変奏した波多野が客席を歌いながら、歌詞を売って

いる。たとえば「パリの屋根の下」。

客に混じって辺りを警戒する、山川博士の雨宮。見世物の芸人に扮したジヤックや、一寸法師の姿も見える。

ジヤック

(一寸法師へ) おい。あれは波多野じゃないか？ 警視庁の……。

一寸法師

わざわざ新世界まで御出張か？

ジヤック

帰りたくても手ぶらじゃ帰れないんだ、あいつ！

一寸法師

しかし、あれで変奏しているつもりなのか？

ジヤック

(肩をすくめ) 不僅(ブ・ドン)「判らん」

互いに警戒しあいながら人込みに紛れる二人。ばれていないつもり波多野。すっかりその気になって歌っている。

波多野

さあ、トーキーだっせ！ 大(おお)人気のトーキー！ 知ってまっか、おばちゃん？

声が出まんねん、銀幕から。画面の中の役者さんがしゃべりますねん。フィルムから声。なんでや言われたかて、そこがトーキー！ これを見なければ昭和の人間やない！ 活弁なんかも映画やない！ ついにここ新世界でも大公開！ 鬼才、ルネ・クレール監督のキネマ！ 「パリの屋根の下」！ …… さあ、はい、これが歌の文句！ ほんまはフランス語やけどな。ま、固いこと言わんといて。今日は口開(くちあ)け、五銭でどうや！

一方、舞台の別のところで、雨宮へ寄る一寸法師。

一寸法師

(雨宮へ) なかなか似合うぜ。その髭は。あんたが見廻っているってこと

雨宮

は、今日この辺りで素敵な取引があるという噂は、本当なんだ？

一寸法師

お前たちには関わりのない話だ。手下二人のお礼もまだなんだし。

雨宮

マダムに近寄ると、容赦はしない……！

一寸法師

全てが闇の中じゃ、黒蜥蜴も熱演の仕甲斐がないってものだろう？ ブン

雨宮

ヤに騒がれるの大好きじゃねえか、お前のマダムは。

一寸法師

そう熱くなるなよ。俺は、ただ、「クレオパトラの涙」が地上に姿を現す

のを待っているだけなんだからな。

雨宮

消えろ。

一寸法師

ああ、ぞくぞくする。今日は、とてつもなく素晴らしい一日になりそうな

予感がする……。

歌いながら、見物人の踊りの輪に混る一寸法師。

ジャック

(それらを眺め楽しそうに) これでこそ、名にし負(お)う「新世界」!

ザ・ニュー・ワールド!

闇市のような雰囲気の中、道具替わり。

第七景 通天閣

展望台。上手寄りにエレベーター。周囲を通路が巡る。現今と違って吹き抜けのため、春とはいえ寒い風の今日は、土産物や煙草を売る売店は、方々に帆布を立て廻してある。ここでは、賃貸しの双眼鏡を並べている。曇天とあって、階下の賑わいに比べて、見物人は数えるばかり。

前景のしばらく後。

エレベーターが開いて、鞆を持った岩瀬が降りて来る。

不安げに周囲を伺いつつ、人を待つ。

向こう側より、丸いサングラスに、毛皮のコート姿の黒蜥蜴が、にこやかに登場。ぎよつとして、身を堅くする岩瀬。

黒蜥蜴 まあ、ほんとうにご無沙汰。岩瀬さん、お元気そうでなによりでございますわ。

岩瀬 ……緑川さん。お前が……黒蜥蜴だったのか……。

黒蜥蜴 すみません。私、本当は黒蜥蜴だったのでございますわ。

岩瀬 三年前にしくじってからずっと、私らを騙して、家に入り込んでいたのか!人間の皮をかぶった悪魔だ。人非人(にんびにん)だ。

黒蜥蜴 まあ、淋しいわあ。騙しただなんて、あなた、これでも随分、つまらない「石ころ」を、法外な値段で買って差し上げたじゃございませんか。

岩瀬 黙れ!盗っ人の分際で……!

見物客が、岩瀬の声に振り向く。我に返る岩瀬。

黒蜥蜴 「盗っ人の分際で」。そうやって、今まで沢山の人を故（ゆえ）なく見下（みくだ）して叱ってこられたのね。「奉公人の分際で！」「女中の分際で！」「支那人のくせに！」「女のくせに！」……私に言わせれば、あなたこそ、「成金の宝石屋の分際で」、本来値段などない天然自然の恵みの石を、「宝石」という衣を着せかけるだけで、大金に変えようという大（おお）詐欺師だわ。お天道様に顔向けが出来ないということでは、私と大差はなくってよ。（笑う）

岩瀬、怒りと恥を抑え、

岩瀬 ……何とでも言え。私は、お前の条件を少しも違（たが）えずに履行（りこう）した。娘は間違いなく返してくれるんだろ？

黒蜥蜴 ええ、それはもう。お約束のものは、（鞆を示し）そこに？

鞆から、小さな宝石箱を出す。黒蜥蜴、周囲に人のいないのを確かめ、開く。

黒蜥蜴 ……なんて……素晴らしい。これが「クレオパトラの涙」……。

うっとりとする黒蜥蜴。

黒蜥蜴 この輝きの前に、私たち人間は、なんてうつろで、醜いのかしら。……この輝きの前では、どんな人間でも、巡礼のように敬虔になるわ。

岩瀬 これで代金は済んだ。娘を返してもらおう。

黒蜥蜴 ええ、それは間違いなく。では、お先にお引き取りを。

岩瀬 泥棒と前金で取引が出来るか。

黒蜥蜴 （微笑）どうぞ、お先に……。何といっても、私、お尋ね者の身でございますから。

岩瀬 （感極まって）もし、もし、私が、正義感にかられて、娘の命を犠牲にしても、天下に害毒を流すお前を捕まえようとしたら……！

黒蜥蜴 （笑って）似合いませんでしょう？「天下」だの「正義」だのって。

岩瀬 く……！

黒蜥蜴 それに、三年かけて、ちゃんと存じておりますもの。あなたは、娘より石ころを大切になさるような、人非人ではないと。

岩瀬 （無力感にがっかりとなる）

黒蜥蜴は、売店の賃貸しの双眼鏡を借り、岩瀬に渡す。

岩瀬 ?

黒蜥蜴 ほら、あちらのお風呂屋さんの屋根の上をご覧になって……そう、あの煙突の下。物干し台に、洋服の男がおりましよう？

岩瀬 (のぞきながら) ……ああ……むこうも双眼鏡でこっちを見てるぞ。

黒蜥蜴 ルナ・パークの、あの錆びた看板の上。……むこうのビルの屋上にも……。私に万が一のことがあれば、たちまちお嬢さんのお命がなくなるという仕掛けになっておりますの。それでも、私、気が小さいものですから……。

岩瀬 (しおしおとエレベーターへ。黒蜥蜴を見返り、手を合わせ、小さく) 緑川さん……！早苗を……。お願いします……！

頭を深く下げた岩瀬を乗せたエレベーターが下って行く。

黒蜥蜴 ……私も本当に気が小さいのね。見物人が、皆、明智の手下に見えてくるわ。(下の広場を眺めて)道化のジャックがあんなところにいるってことは、二十面相たちも集まっているってこと？まったく油断も隙もありゃしないわ。血の匂いを嗅いで集まって来た秃鷹かハイエナね。

黒蜥蜴は、売店の娘の方へ。奥に、丸眼鏡に毛糸帽、髭面の、足の悪い亭主も座っている。後に明智の変装と知れる。

41

黒蜥蜴 (双眼鏡を返す。これより関西弁) あの、すんまへん。

娘 へえ。毎度おおきに。

黒蜥蜴 あの、今、そこで、私と話していた男がおりましたやろ？

娘 え、ええ。

黒蜥蜴 あの人の、恐ろしい悪党なんです。私、あの人に脅されて、ひどい目に遭いそうなんやわ。助けてもらえまへんやろか。

娘 それは、まあ、お気の毒ですなあ。(奥へ)なあ、お父ちゃん。

父 おう……。

黒蜥蜴 あの男、きつと塔の下で私を待ち伏せしてますのやわ。どないしよう？そや、あの、一寸の間(ま)、着るもの取り替えていただけまへんか？私の、これと。そんなら私、あんたに化けて、警察に駆け込むことが出来ますわ。お願いします。お礼はなんぼでも……。

と、懐から出した金を押し付ける。

娘 ええー！へえ、ちょ、ちよつと待って。(父へ)お父ちゃん、これ！えらいこっち

や、このおばちゃん、悪い男に付け狙われとるんやて。

など、ごそごそ話す父娘。やがて、

娘 へえ、どうぞ、こっちゃへ、狭いですけど。へえ。

黒蜥蜴 おおきに。命の恩人や。嬉しいわあ。ありがとうございます。

立て廻した帆布の奥へ入る黒蜥蜴。

やがて、黒蜥蜴のコートを着た娘、登場。娘の着物に、前掛け、姉さん被りの黒蜥蜴が続く。

娘 (自分の格好を見て) ひゃー、ごつついわあ。お父ちゃん、ええべ々なあ。けっ

こう似合うてるな？

亭主 うう……。

黒蜥蜴 おおきに、ありがとうございます。しばらくこの辺りでうろろしてはったらよろし。そのコートもどうぞ。かましまへんて。

娘 ひえー、この上こないなもんまで！お父ちゃん、一緒に警察まで行ってやんなはれ。
亭主 おう。

42

「売店の売り子」の格好の黒蜥蜴、びっこの亭主にすがるようにして、エレベーターに乗る。
エレベーターが下る。興奮して歩き廻る娘。道具替わり。

第八景 ルナ・パーク

道具は、第六景の「新世界」のバリエーション。

通天閣の下、ルナ・パークの脇。歓楽街の喧噪のすぐ裏手。

A 「通天閣の下」

前景に続く時刻。小雨。

売店の亭主と黒蜥蜴が連れ立って登場。亭主が自分の上っ張りを脱いで、黒蜥蜴の上にかざしている。ちよっと見には、通り雨にあった仲の良い夫婦のよう。

やがて立ち止まり、周囲を見回す黒蜥蜴。

亭主 ……（「警察署は」あっちゃやで。（と、先をうながす）

黒蜥蜴 ああ、警察署はもういいのよ。……この辺りに迎える車がいるはずなのだけど……。
（舌打ちして）仕様がないわねえ、どういうこと？

黒蜥蜴は、身の危険を感じ、警戒しながら、亭主の腕を取って物陰に退る。
と、エレベーターの方より、緑川夫人の着物を着た娘が、父の傘を持って
やって来る。きよろきよろ捜している。

娘 お父ちゃん……？降って来たで……。

亭主 （見つけ）あ……。

黒蜥蜴 （また、舌打ち）上にいろって言ったのに、馬鹿娘。

亭主 ええ……？

と、言っている間に、一寸法師と手下が二人走り出て、娘を拉致。
と、今度は、町の人間を装っていた黒蜥蜴の手下二人が、娘を黒蜥蜴と間
違えて奪還に走り出る。

黒蜥蜴 あ、痛っ……！馬鹿なのは私の手下だ……！

一寸法師たちと、黒蜥蜴の手下が、たちまち乱闘。

黒蜥蜴の手下は倒れ、退場。

娘 （暴れる）違う！私は頼まれて、着物替えただけや！違う！

一寸法師たち え？

と、二階席から眺めていたジャックが笑い出し、

ジャック 黒蜥蜴ちゃん、見いーつけた！黒い尻尾が丸見えでーす！

一寸法師 クレオパトラの涙、発見。

一寸法師たち、向かって来る。娘、逃げる。

さすがに焦り、ピストルを出す黒蜥蜴。

と、亭主が黒蜥蜴を庇って前へ出る。

黒蜥蜴 気でも違ったのかい！
一寸法師 どけ！じじい！

襲いかかる一寸法師たち。
亭主、つまり明智は、鮮やかに敵をたたき伏せる。嘩然として見ている黒蜥蜴。

一寸法師 誰だ、お前は……！

明智 怪人二十面相……。

黒蜥蜴 (その声に)？……え……ええ！

明智、髭を取り、ニヤリ。

ジャック (笑い出し) ブラボー！

黒蜥蜴 うるさい！

黒蜥蜴、二人に向けてピストルを撃つ。
ジャック、笑いながら消える。一寸法師たちも、逃げ去る。

黒蜥蜴 (呆然) 呆れた人ねえ、あなたって人は……。

明智 君を騙すのは心苦しかった。

黒蜥蜴 さぞ愉快だったでしょうね？私の間抜けな芝居を舞台裏から見られて。

明智 出来れば客席から拝見したかったのだけど。

黒蜥蜴 (ピストルを向け) 私、今、顔がほてって、今にも身体ごと燃え出してしまいそうよ。こんな恥ずかしい思いをしたのは生まれて初めてだわ。心から人を殺したいと思っただけ初めてよ……。

明智 精一杯付き合ったんだ、秘密の共演者同士、仲良くやろう。

黒蜥蜴 最低な男。一度殺したくらいじゃあき足らないわ……！

と、ピストルを握り締めるが、明智は気にもかげず。
見つめ合う二人。

一寸法師の面々、青竜刀などがざして戻って来る。と、客席後方より、拳銃を手に波多野が走り出て来る。

波多野 動くな！御用だー！悪党ども、揃い踏みだのう！

明智 波多野さんまで…… (呆れて頭を振り) どうしてだ？さ、こっちだ。

脱兎の如く逃げ出す明智と黒蜥蜴。追う一寸法師たち。

波多野 お化け屋敷に逃げ込んでも無駄だ！馬鹿め！袋の鼠だ！
ジャック (鳥のように笑い) 飛んで火に入る夏の虫は、あんただぜ！

小競り合いをしながら、二人を追う波多野。
道具替わり。

B 「お化け屋敷」

お化け屋敷の中。
ともかく、暗い。

一寸法師と明智の、京劇風立ち回り。

「お家の重宝」ならぬ寶石箱を取り合つての、呉越同舟のだんまり模様が少しあって、とど、助け合つて窮地を脱する明智と黒蜥蜴。

道具替りにて時間経過。

45

C 「廃材置場」

この間に、黒蜥蜴は、飛田の娼婦に、明智は、着流しの遊び人風に姿を変えて逃げている。

……すっかり暗くなっている。霧雨。

たとえば、壊れた回転木馬、倒れたキューピーちゃんの看板などの蔭に、浮浪者のぼろ布などかぶって、身を寄せ合つて隠れている明智と黒蜥蜴。

黒蜥蜴 明智さん、大丈夫？

明智 ああ、有り難う。

黒蜥蜴 (笑い出し) なんて格好なの。

明智 お互い様さ。

黒蜥蜴 よくお似合いよ。

明智 ……どうやら良かったかな。

黒蜥蜴 ……あなたの優秀な若者は？

明智 あんな連中との立ち回りに巻き込みたくはなかったよ。

黒蜥蜴 いいところの子たちなのね。

明智 いや、みなし兇同然さ。……青島（チンタオ）で親が戦死したり、大正の大地震で家族が全滅したり……。

黒蜥蜴 あなたが面倒を見てらっしゃったの？

明智 ……まあ……そんなようなものかな。

黒蜥蜴 あなたって方は、犯罪とご自分の趣味にしか興味が無いと思っていたわ。

明智 （苦笑）こないだ会ったばかりじゃないか。

黒蜥蜴 一生同じ家に暮らしていても、判り合えないものは判り合えないものよ。判り合えるものは、一瞬でも長いくらい……。

明智 ……僕には……君が、まだ判らないよ。

黒蜥蜴 ……嘘。

明智 ……ほんとうさ。今まで僕の見知って来た、どの盗賊にも似ていない。

黒蜥蜴 「盗賊」なんぞでにくくりにするからよ。

明智 でも、僕は探偵で、君は盗賊だ。

黒蜥蜴 いいえ。ただ、美しいものに生命を賭けることの好きな者同士……。

明智 ……美しいものに生命を賭けること……か。

黒蜥蜴 あなたと私は……双子のようすわ。

明智 なるほど。……そう、生まれてすぐに引き離されて、別々に育った双子の兄妹（きょうだい）……。

黒蜥蜴 （微笑）そう。そうして、お互いに、自分たちが同じ血の流れている兄妹という⁴⁶とも知らず巡り合うの。……そして、恋に落ちる……。

明智 ……悲しい結末が待っていきそうだなあ。

黒蜥蜴 でも、限りなく美しい物語になるわ。

二人、暗がりで見つめ合う。

明智 ……罪滅ぼしなのかもしれん。

黒蜥蜴 罪滅ぼし……って？

明智 僕の家は、日露や大戦（第一次世界大戦）で大儲けした戦争成金（なりきん）でね。

小さい頃は、乳母（おんば）日傘のお坊ちゃまだった。

黒蜥蜴 私も似たようなものだったわ。

明智 支那へも渡った。英国へも、印度にも。

黒蜥蜴 探偵のご修行に？

明智 （笑い出し）とんでもない。ひたすら美しいものを見るためだけ、巡礼の旅さ。

黒蜥蜴 素敵……。

明智 僕への尋問ばかりだ。僕にも少しは、君の身の上を知る権利があるだろう？

黒蜥蜴 ……じゃあ、一つだけ教えてさしあげるわ。……生まれてすぐ、双子のあなたと離

れさせられた後ね……。ある華族様の家に連れて行かれて、私はその家のお姫様になった。……白い鎧戸の高窓から、いつも日の光が降り注いでいるの。絶え間無く咲く庭の白い花々。風はどこまでも優しく渡り、花の中に、シルクハットのお父様と……日傘をさしたお着物のお母様……長いレースのシヨールをかけた上の姉……小さな兄弟たち……。女中たちも、みんな私を見つめて微笑んでいたわ。「幸せ」というものももし地上にあるとすれば……。ああいう景色なのだよ。……春の日だまりのような幸せな思い出……。宝石のような……。

明智 ……宝石のような、幸せの時か……。

黒蜥蜴 そうして、落ちも落ちたり、今は地獄を這いまわる蜥蜴になった……。

明智 ……随分、中抜きの結果だなあ。

黒蜥蜴 後は、あなたと同じよ、明智さん。私も、美しいものを捜す巡礼になったんだわ……。

(宝石の函を出し) そしてやっと、ここにたどり着いた。

明智 長い巡礼の果てに、こんな歓楽街の裏のゴミの山の中で……。

見つめ合う二人。やがて影は一つになる……。

黒蜥蜴 ……お別れいたしましたでしょうか……。 (ピストルを出す) でも……。

明智 でも？

黒蜥蜴 (ピストルを向けたまま) お別れしたくないわ。

明智 僕ですよ。

黒蜥蜴 お礼をさせていただきたいの。生命を助けていただいたお礼を……。

明智 (腕を見せ) これで充分です。

黒蜥蜴 つまらない男ね。

明智 ああ、では一つ、お礼に教えてもらいたいことがあります。どうでしょうか。

黒蜥蜴 今の私に、出来ること？

明智 ええ、とても簡単なこと……。 お呼びしたいのです。あなたの本当のお名を。

黒蜥蜴 (微笑) よりよって？……そう、それはねえ……。 (と、物音に気づき) 誰？……出ていらっしやい。

物陰から、ブンの郷田が、手を挙げて出て来る。

郷田 お邪魔してすみません！あ、波多野さんは、勝手について来たんですからね。いやあ、でも、すばらしい！やっぱりの勘は的中じゃないか！お二人の麗しいご友情！善悪を越えた探偵と女盗賊の恋模様！こんな素敵な記事はございません！ありがとうございます、お二人さん……。

その後から、雨宮、登場。郷田を後から殴り倒す。

雨宮 マダム。遅くなりました。

黒蜥蜴 (明智に銃口を向け) 御機嫌よう、私の兄妹……。

明智に襲いかかろうとする雨宮を制し、黒蜥蜴、闇に消える。雨宮、明智を睨みながら、続く。

波多野警部が登場。

波多野 ……郷田、黒蜥蜴はどこだ？(と起こすが、奇絶している)……明智。大阪くんだりまで来て、これはないなあ。令嬢も宝石も持っていかれた。俺たち二人とも、どの面下げて東京へ戻れるんだ？

明智 ……波多野さん。私はまだ、白旗を揚げたわけではありませんよ。

波多野 当たり前だ。俺だって、この目で二の腕の蜥蜴が動くところを見るまでは、地の果てまで追いかけるさ。明智さん……仲良くしよう。

明智 ええ？

波多野 長い付き合いじゃないか。あんたも、あの二の腕の黒蜥蜴って奴を確かめたくないか？

明智 ……見たことないのですか？あれを。

波多野 え？お前、見たの？あれ。あの、踊りも？

などと話しているところへ、井上も戻る。

井上 先生、大丈夫ですか？

明智 ああ。大したことはない。

と、客席から、ジャックと一寸法師たちが、駆け戻って来る。

ジャック いた！明智だ！

一寸法師 明智もぐるだ！そのイタリア野郎も締め上げてやれ！

波多野 悪党ども、返り討ちだ！

ジャックや一寸法師たち、明智と波多野を取り囲む。
乱闘、しばし。

波多野 一寸法師、御用だ！

道具替わり。

第九景 海上

暗い海を、古ぼけた貨物船が進んでいる。

船外の航行灯も消されている。青い月影にさまよう幽霊船のよう。

この場合は、船底の倉庫。黒蜥蜴の船室。甲板。そして機関室などの船内の暗がり、で構成される。

A 「倉庫」

まず、船底の倉庫。パイプなどが縦横に走り、暗く、殺伐としている。積み荷の中に、例の長椅子。

隅でうずくまって眠る早苗。エンジンの音が激しく響く。

航海士然とした雨宮が入って来る。

49

早苗 (目を覚まし、毛布を引き付けて身を堅くする)

雨宮 慣れるとこのエンジン音ですら、子守唄に聞こえて来る。

早苗 ……眠っていた訳じゃないわ……。

雨宮 ああ、船酔いかあ。この大ききで外洋に出ているのだから、揺れるはずさ。人はね、およそどんなことにでも慣れることが出来る。心底腹がへれば、人間だって食べるらしい。

早苗 私は、食べません。

雨宮 (笑って) どうやら君は、黒蜥蜴に気に入られてしまったようだし。

早苗 ……どうということ？

雨宮 お父様のもとへ返す気がなくなっただってこと。

早苗 ……父を騙したのね！

雨宮 俺たち。人を騙すのが商売だもの。

早苗 卑怯者！

雨宮 悪人だからね。

早苗 人間の屑です！

雨宮 ……俺は、一度死んだ人間の屑だ。ま、幽霊のようなものかな。この船に乗り組んでいる者は、皆、似たり寄ったりさ。この船そのものが幽霊船って訳だ。

早苗 ……地獄へ行くの？

雨宮 とんでもない、極楽へさ。東京湾の入り口の、ある秘密の場所に、マダムの私設美術館があるのさ。そいつは素敵な美術館だ。

早苗 黒蜥蜴は、そこで私をどうしようというの？

雨宮 さあ。マダムの考えていることは、俺には判らないよ。俺はただ、マダムの命令を待っているだけなんだ。あの人のためだけに生きているんだ……。

早苗 ……おかしいわ、あなた方みんな狂っている。

雨宮 ……おかしいのはお前だろう？「クレオパトラの涙」は、もうこっちのものなんだぜ。つまり、お前はもう身の代としても価値なんて、これっぽっちもないってことだ！いつ海に放り出されてもおかしくないのに。判っているのか？父親がちょっと金持ちというだけで、自分までが偉くなったような気になっている。俺はそういう奴を見ると、無性に腹が立ってくるんだ。お前なんぞ、はなっから何の価値もない女なんだ。ほんとうの人間の屑とは、お前のことだ！

早苗 (耳をふさぎ) やめてー！

春が、そんな様子を眺めている。

春 みつともないわ、弱い者いじめは。

早苗 (春を見て、顔をそむける)

雨宮 「どうぞお助け下さい」と、泣いてすぎるのが普通じゃないのか？

春 お嬢様、温かい食事を向こうに支度してございます。いかがです？

早苗 ……お下がり！裏切りもの。

雨宮 (春へ) ほらあ！これが嫌だろう？

春 (にこやかに) 裏切ったわけじゃございませんわ。三年かけて、一所懸命ご奉公いたしましたのですの。さ、お嬢様……。

早苗 お前に、お嬢様と呼ばれる筋合(すじあい)はない。恥知らず！

雨宮 もう、海に沈めちまいますよ。

春 ……では、召し上がりたくなったらお呼びくださいまし。(と、行きかける)

早苗 待って。

春 はい。

早苗 ……お前、お父様のお手紙を持って、明智先生に会いに行ったのよね。

春 ええ。

早苗 恐ろしくはなかったの？

春 いいえ。私も光栄でございましたわ。黒蜥蜴様からも、くれぐれも明智先生が乗り出して下さるように、誠を込めて御頼みするように申しつかっておりましたから。

雨宮 (驚き) わざわざ明智が乗り出すようになって……。

春
それが黒蜥蜴様のやり方でございますから。いつだって、正々堂々と勝負を挑まれますもの。(微笑) さ、どうぞ、こちらへ……。

早苗、口惜しそうにしていたが、立ち上がり、春について行く。続く雨宮。
道具替わり。

B 「船室」

この船は、外装はボロボロだが、内部は、豪華な絨毯が敷き詰められ、趣味の良いカウチ、クローゼットなどがしつらえてある。

黒蜥蜴が、侍女の紅子(べにこ)の報告を聞いている。

紅子 ……ええ、幽霊が、炊事室にまで忍び込んだと言って、大の男たちがオロオロして。
黒蜥蜴 ……ふーん。船乗りは人一倍迷信深いからね。私たち陸(おか)の者が鼻で笑った
りしてはいけないよ。

紅子 はい。ですが、丸茹(ゆ)でにした鶏が一羽、どうしても見つからないのですって。

黒蜥蜴 この船に、そんなガツガツした者がいるかしら？

紅子 ええ、ですからみんな首をひねって。やっぱりこの船には、何か取り憑いているの
かもしれないと……。

春の声 ……よろしゅうございますか。春でございます。

黒蜥蜴 お入り。

春が、せむしの機関士、松公と入って来る。

松公 黒蜥蜴さま……。

黒蜥蜴 どう？松公も聞いたのかい？

松公 へえ。どこからともなく、ぼそぼそ人の話し声のようなものが聞こえるんですあ
……。

春 みんな後ろ暗い過去を背負っている連中です。皆、その手のことに敏感なのでござ
いますよう。

松公 あれは、俺が殺した奴の声かねえ……。

黒蜥蜴 揃いも揃って弱虫ねえ。判ったわ。皆に、良く確かめるように伝えておくれ。

春 はい。紅子、お前は船尾の方をもう一度見て廻って。

春と紅子、松公も出て行く。

黒蜥蜴は、着替えようとクローゼットに入ってゆくが、すぐ、ゆっくりと

後退って出る。

黒蜥蜴 ……なんて人なの……あなたって人は……。

ピストルを手にした明智、登場。

明智 僕は、影法師のように、君の身边から離れないのだよ。

黒蜥蜴 驚いたわ……。恐ろしくはないの？あなた……。ここは、私の味方ばかりで、警察の手も届かない海の上ですよ？

明智 怖がっているのは、君の方じゃないのかい？

黒蜥蜴 どうしてこの船が……？

明智 ある人について行ったら、自然とここに来ることになったのだよ。

黒蜥蜴 ある人？……あ！

明智 そう、春さんをね。部下に見張らせておいたのさ。

黒蜥蜴 ……さすがね。でも、いつから春が手下だった？

明智 僕の事務所には、ベックリンの「死の島」の模写がかけてあるんだ。

黒蜥蜴 (思い至り) ああ、それで……。

明智 並の女中さんが知っている絵じゃない。それに、三年ほど前、日本で唯一のベックリンが盗難にあったらう？

黒蜥蜴 ……少なくとも、絵の趣味は近いってことね。

明智 光栄だね。

黒蜥蜴 そうして、これからどうするおつもり？まわりは海よ。

明智 まだ水は冷たい。僕はそんなに泳ぎがうまくないんだ。

黒蜥蜴 (寄り) あなたに、私が撃てて……？

明智 多分……。

黒蜥蜴 会いたかったわ……。

明智 ……寄らないでくれ。

黒蜥蜴 (更に寄る) 私は……平気よ。あなたに撃たれるのなら……。

明智 ……だめだ……！

明智は、銃を取ろうと飛びついた黒蜥蜴の手をねじり上げ、クローゼットに押し込むと、外から鍵をかける。明智、素早く部屋を出る。

黒蜥蜴の声 誰か！くそー！明智よ！誰か！

ドンドン叩いて喚く黒蜥蜴。

C 「船内」

しばらく後。船内の大搜索。
懐中電灯の光の筋が方々から流れ、交錯する。機関室あたりの暗がりや、
猟犬のように捜す手下たち。

雨宮 明智がもぐりこんでいるのだ！幽霊の正体は明智だ！早く捜せ！

D 「倉庫」

しばらく後。

再び倉庫。緊張する早苗。男たちが明智を捜し駆け抜ける。

早苗が、一人になってほっとするところへ、黒蜥蜴が入って来る。

黒蜥蜴 ……（見透かすように、優しく）顔色がよくてよ、早苗さん。若い方はそうでなく
ちゃ。

早苗 ……私、あの……あなたの美術館へ行くのですか？

黒蜥蜴 そうよ。きつと喜んでもらえてよ。

早苗 私、そんな処へ行くの、嫌ですわ。

黒蜥蜴 嫌でしょうけど、私は連れて行くのよ。

早苗 いいえ、私行きませんから。決して……。

黒蜥蜴 まあ、大層自信がおありなのね、あなた。

早苗 私、信じていますわ。ちっとも怖くはありませんもの！

黒蜥蜴 ……信じている……って、誰を？

黒蜥蜴、早苗をじっと見ていたが、突如、

黒蜥蜴 北村！北村！

北村が飛び込んで来る。

北村 は！

黒蜥蜴 この娘（こ）を縛って、上の部屋へ閉じ込めておしまい！ピストルの用意はいいだ
ろうね。どんなことがあっても逃がしたりしたら承知しないよ！

北村 はい、確かに！

黒蜥蜴、いらだたしげに歩き回り、ソファに座る。
しばらく考え込んでいた黒蜥蜴だが……、

黒蜥蜴 (ソファの中に温もりを感じ) ……明智さ……ん……？

明智の声 君の作ったからくり仕掛けは、大層役に立つねえ。

黒蜥蜴 (動揺) 船中捜しても判らなかつたはずね……。

明智の声 残念、ここも見つかってしまったか。いよいよ海へ飛び込まなければなら
ないのかなあ。その前に、もう一度だけ、君の美しい顔(かんばせ)を拝んでおこ
う……。

黒蜥蜴 だめ！今出ちゃいけません。動かないで……！男たちに見つかったら、あなたの命
がありません。もう少しじっとしていらつしやうて。

明智の声 え？君は僕をかばってくれるのかい？

黒蜥蜴 好敵手を失いたくないもの。動かないで。じっとして……！

黒蜥蜴、ソファにもたれ、まるで明智を慈しむように抱き着くこと、しば
し……。

雨宮が顔を出す。

黒蜥蜴は、ソファの中に明智がいる、と、指し示す。

雨宮は、そうつと寄り、後に続く北村らと、一気にソファに飛びつき、傍
のロープをぐるぐる巻きにする。

明智の声 おい、どうしたんだ？何をしている！

黒蜥蜴 今、ロープを巻いているの。そう、名探偵を簀巻きにしているところなのよ！さあ、
みんな、その長椅子を甲板へ！

一同 は。

黒蜥蜴 ……明智さん！さようなら……！今度こそ、本当のお別れだわ。

雨宮 様(さま)を見ろ、明智！水葬礼だ！（笑い出す）

黒蜥蜴 (雨宮の頬を打つ)

男たちに担がれた長椅子が、真つ暗な甲板に運び上げられ、真つ暗な海に
放り投げられる。

水の音。雨宮、黒蜥蜴に見つめられ、黙然と船内へ戻る。

エンジンの響き、続く……。道具は、ゆっくり開いて、星空の夜の海とな
る。

少し前より、春が登場。船尾の泡立つ波の跡を見つめ続ける黒蜥蜴。

黒蜥蜴 ……春……。

春 (背後へ寄り) ……はい。

黒蜥蜴 間違っていないわよね？間違っていないわよね、私は……？

春 ええ……、お嬢様。決して……。

黒蜥蜴 ……お前は、ずっと私を見守っていてくれた。お前だけは……小さい頃から……お

前だけは私の味方だった。

春 はい、お嬢様……。

黒蜥蜴 ……私は……間違っていない。……なのに、なんて情ないの。この涙は何？最高の

好敵手を倒したというのに、この……堪えきれない涙は、一体何？春！春！春……！

春、悩乱する黒蜥蜴を抱き抱える。

春 お嬢様……！

黒蜥蜴 明智さんが、死んだ……。明智さんが死んだ……。明智さんが……死んでしまった

あ………！

満天の星々が暗い水面に映り、二人は、宇宙のただ中に取り残されたよ⁵
……。

暗転。

第十景 恐怖美術館

黒蜥蜴のアジトであるこの島は、ベックリンの「死の島」のような小さな島で、地下に入ると、洞窟を利用した「美術館」になっている。

翌る朝。その洞窟の中。

黒い長いマントをかぶった黒蜥蜴、春が北村に先導されて、地下へ降りて来る。

早苗を連れた雨宮、松公ら手下も続く。

洞窟の上部より差し込む明かりが、細く深く内部までこぼれている。(客席も含めて「恐怖美術館」の心)

黒蜥蜴 早苗さん、随分窮屈な思いをさせたわねえ。さあ、もういいのよ。ここは、陸軍がガス兵器の研究に使っていた島でね。大きな事故があつてから、今じゃ、誰も近づく人もいない。

内部の灯がつけられる。

壁には、件の「死の島」がかけられている。

周囲は、カーテンが幾重に重なつて下り、地底の空間を更に複雑に仕切つているようだ。

早苗 まあ……。

黒蜥蜴 感心してくれたのね。ここは私の美術館なの。いいえ、美術館のほんの入り口なのよ。どう？この壁、この天井……。十数年の間、命をかけて、智恵という智恵を絞り、危険という危険を冒（おか）して集めたものがここにはあるの。

黒蜥蜴は、ポシエットから「クレオパトラの涙」の函を出す。

黒蜥蜴 岩瀬さんにはお気の毒だったけれど、これが、私の長い間の念願だったの。今日こそ「クレオパトラの涙」が、私の美術館に降り立つのだわ……。

56

空いていた陳列台に、宝石を据える。皆感嘆の声。

黒蜥蜴 ……完璧だわ。これで、私のとりとめのない欲望と憧れの宝石箱が、完璧な輝きと秩序に満たされたのだわ。……ありがとう、早苗さん。皆はもういいわ。ご苦労。持ち場にお戻り。

黒蜥蜴と早苗、春、雨宮が残る。

黒蜥蜴の指図で、紗のカーテンの向こうに等身大の人形が浮かぶ。

黒蜥蜴 こちらはどうぞ？

早苗 ……？……蠟人形かしら……。

黒蜥蜴 （笑って）よく出来た生（いき）人形でしよう？でも少うしよく出来過ぎてはいなくて？もっと近寄ってごらんなさい。……ほらその人の身体には、細かい産毛（うぶげ）が生えているでしょう？産毛の生えた蠟人形なんて聞いたことも無いわね……。どことなく、人形とは違った、恐ろしいようなところがあるでしょう？（早苗の背後に迫り）動物の剥製標本を見たことなくて？丁度あんな風に、人間の美し

い姿を、永久に保存する方法が発明されたら、素晴らしいことと思わない？

早苗 (悲鳴) !

逃げ出そうとする早苗を雨宮が掴まえる。

黒蜥蜴 そうよ。そうなの。私の部下が、研究に研究を重ねて発明したのよ。たいしたものだと思わないこと？

早苗 ……あなたは本物の悪魔だわ……！恐ろしい……人間の姿をした化け物よ……！

雨宮 こんな美しい化け物があったたまるものか。

黒蜥蜴 (微笑し) 悪魔ねえ……お会いしたことがないものですから、お返事のしようがないわ。

早苗 何人、人を殺したの？

黒蜥蜴 馬鹿な子ねえ。そんなもの数えてどうするのよ。私は、時を止めようとしているの。時間も月日(つきひ)も流れない、もっとも幸せな瞬間だけを留(とど)めておきたいの。生きていけば段々失われていくに違いない美しさを、永遠に留めておきたいの。……ここには、人形にはない、その人の魂がつき纏(まと)っているのだから……。早苗さん、美しいあなた……。あなたにも、永遠の時を差し上げたいだけのよ……。

早苗、恐怖のあまり失神する。雨宮が抱きとめ、床に寝かせる。

春 おやおや。口の割りには、今の子はひ弱ですわねえ。

黒蜥蜴 (つくづく眺め) ほんとうに、死んだ姉によく似ていること……。

春 ええ……確かに……。

黒蜥蜴 (雨宮へ) 決して逃がさないように。その子で私の美術館は完成するのだから……。……疲れたわ、とても……。私は、少し休むわ。春以外、決して奥の恐怖美術館には来ちゃだめよ……。

春 かしこまりました。ゆっくりお休みくださいませ……。

黒蜥蜴、奥のカーテンの、幾重にもなったひだの中へ消える。

春 (その姿を見送って) ……あんなお疲れのご様子は見たことがないわ……。

雨宮 折角、全てが手に入ったというのに。明智なんか惚れやがって……。

春 (呆れ) なんて俗な科白を吐くの？最低だわね。ロマンのかけらもないわ。

雨宮 ああ、どうせ俺は、俗悪な人間さ。一生、あの人の奴隷なんだ。

春 望んで選んだことじゃなくて？

雨宮 そりゃあそうだけど、俺だって若い男なんだ！肉体には自信がある。

春 なんて俗なの！世間の汚れた空気を、この島に持ち込まないでよ！あなたの言葉の一つ一つで、この凍りついたような空気が、どんどんふやけて腐ってゆきそう！

雨宮 （肩を掴み）春さん、俺だって男だということなんだ！

春 え？えええ？私は、女よ！

雨宮 そんなことじゃないんだ！第一、奥の恐怖美術館って何なんだ？あの人と春さん以外、誰も入ることの許されない、恐怖の美術館……。人間の剥製が並べられているのは想像がつく。しかし、もつと恐ろしい秘密があるのだろう？何故、俺には見せてもらえないのだろう……！

雨宮、奥へ行きかける。

春 だめ！決して行ってはだめ！

雨宮 そうだ、俺はあの人との秘密ひとつ知らないのだ。奴隷でもいい。人形にされても本望だ。それであの人に愛されるのならば……。どいてくれ。

春 行かせる訳にはまいりません！

雨宮 どけ……。明智はもうこの世にいない……。春さん。あの人を、慰めることが出来るのは……。俺だけなんだよ。

立ち塞がる春を払い、奥へ行こうとする雨宮。

春 （ピストルを出し）行かないで。そこは、黒蜥蜴様、最後の安らぎの部屋だから。魂の汚れた人間は、一足も入れる訳には参りません。

二人、付け回している内に、早苗が気を取り戻していた。春の下から拳銃に飛びついて、もぎ取る。

春 あ！

早苗 二人とも、手を上げて！

雨宮 なんてこった……。

早苗 私でも、拳銃の撃ち方くらい知っててよ。明智さんに教わったもの……。

あなどって、雨宮が近づく。早苗、発砲。

雨宮 うわ！（かすめる）……。くそ……。。

膠着状態になってしまおう三人。と、入り口の方より、松公の「大変だー！」の聲。転げ出る。

雨宮 どうした、松公……。

松公 ふ、船から、け、煙が出てるー……！来てくれ！

雨宮 何！

松公 は、はやく、はやく、船が燃えるー……！（早苗の拳銃に気づき）わあー！（大袈裟に手を上げ）う、うつなあー！

早苗 撃ちます！

松公 たすけた、くれー！（と、自然に早苗の銃にしがみつく。雨宮へ）はやく、船を！
雨宮 判った！その娘を頼む！

雨宮、入り口を駆け上がって行く。

人々の騒ぎ声。松公は早苗を掴まえる。

春 でかしたわ、松公！

奥のカーテンより、黒蜥蜴が現れる。

黒蜥蜴 どうしたの？

春 船から煙と違って、皆、消しに上がって行きました。

黒蜥蜴 松公だね。どうして煙が？

松公 さ、さあ……？

黒蜥蜴 （舌打ちをして）うすのろ。役立たずめ。（と、自分も行きかける）

入り口の上の方で発砲の音。

ぎよつとする黒蜥蜴。

波多野の聲 黒蜥蜴！島は包囲されておる！観念して出て来い！

黒蜥蜴 ……ええ？なぜ、警察が？

春が、照明の電源を落とす。途端に暗闇が支配する。上より洩れた細い光の林の中を、黒蜥蜴は奥へ逃げようとする。松公はその行く手に、立ち塞がる。

松公 ……。

黒蜥蜴 ……？松公？……お前は……本当に松公なの？

松公 君はもう、判っている……。

黒蜥蜴 ……それじゃあ、あなたは……。

明智 そんなに僕の名前を口にするのが恐ろしいですか？

黒蜥蜴 ……やっぱり……あなたなのね。

明智 遠慮せずに、僕の名を……言っして下さい。

黒蜥蜴 ええ……明智さん……。

顔を上げ、むさ苦しいかつらを取ると、明智である。

明智 やっと、追い詰めました。

黒蜥蜴 でも、どうして……そんなことがあり得るの？

明智 あの長椅子に入っていたのは、僕ではなく、猿轡をはめられた、哀れな松公だったのです。

黒蜥蜴 まあ……でも、そんな。私は確かに、あなたの声を聞いたわ。

明智 私は、長椅子の真下の通気口に隠れていたのです。

黒蜥蜴 (笑って) お見事。なんて、お見事……。

強力な懐中電灯の光と共に、入り口から波多野の率いる警官、私服刑事たちちと、井上が入って来る。駆け戻って来た雨宮。

波多野 御用だ！この島はすでに取り囲まれている！観念して縛につけ！

雨宮 マダム、逃げて！逃げて下さい！（警官たちへ）あの人に触るな！お前たちに、あの人を……！

雨宮、飛びついた刑事から、怪力でもぎ取ったピストルを構える。

明智たちとの乱闘。

が、ついに警官たちに足を撃たれ倒れ臥す雨宮。

雨宮 マダム！マダム……！

雨宮、警官たちに連れ去られる。

明智たちに追い詰められる黒蜥蜴。春を助け出した波多野たちも現れる。

波多野 黒蜥蜴。これでお前の物語も、幕ってわけだ。……明智さん、終わりがたくなかった

ろうがな……下りない幕は、ないのさ……。

黒蜥蜴は持っていた毒薬をあおぐ。

春 お嬢様！

明智 しまった……！

崩れ落ちる黒蜥蜴。明智、黒蜥蜴を抱き止める。呆然と見守る春。見つめる波多野。明智の部下に保護された早苗……。

明智は、波多野を見つめる。波多野は、無言のまま、泣き崩れる春たちを連れて、去る。明智と黒蜥蜴だけが残った。

明智 ……なんということを……。

黒蜥蜴 ……明智さん、私は、……あなたに負けました。なにもかも負けたんだわ……。

明智 君と僕の間では、勝ちも負けもなかった。

黒蜥蜴 いいえ。口惜（くや）しいけれど、私は、心のどこかでこの日の来るのを、待っていたのだから。そうして、私は、あなたに捕まるの日を……夢に見るまでになっていたのね。

明智 僕は……僕は、この日が来るのを、心の底から恐れていた……！

黒蜥蜴 盗まれたのは、私の心の方だった。……そして、私の、私の追い求めていた最高の¹宝石は……明智さん……あなただった。……嬉しいわ。嬉しいわ。明智さん……私……こんな幸せな死に方が出来ようなんて……。ありがとう……。明智さん……。ありがとう……。わたしの……。ほんとうの……。なまえはねえ……。

黒蜥蜴は、明智の腕の中で、息絶える。

道具が、開き、正面の「恐怖美術館」と称した部屋が現れる。

天井の明かり取りから、光が降り注ぎ、そこは、黒蜥蜴の思い出の中庭のままに。幾種類もの白い花々。シルクハットの父の人形。日傘をさした母の人形……春の日だまりのような、幸せな空間が、永遠の中に広がっている。

明智の腕の中で、すでに事切れている黒蜥蜴。

明智 ……さようなら、僕の……宝石。

凝然と立ち尽くす明智。

幕。

上演記録

平成三十年六月花形新派公演
於 東京日本橋 三越劇場

美術 平山正太郎

照明 北内隆志

音楽 新内 多賀大夫

効果 内藤博司

擬闘 渥美 博

振付 前田清実

舞台監督 小柳津暁生 山内大典

制作 松竹株式会社

主な配役

明智小五郎 喜多村緑郎

黒蜥蜴 河合雪乃丞

波多野十三郎 今井清隆

雨宮潤一 秋山真太郎

岩瀬早苗 春本由香

岩瀬庄兵衛 鈴木章生

柏原春 伊藤みどり

他 劇団新派